

札幌 国際 芸術祭 2017

2017.8.6
— 10.1



大風呂敷プロジェクト
撮影：山岸 清之進



《這い吠え熊》
清水作（旭川）：
山里穂コレクション

GUEST DIRECTOR
OTOMO YOSHIIHIDE

“HOW DO WE
DEFINE ART
FESTIVAL?”

— WHEN BITS AND PIECES
BECOME ASTERISMS —

ゲストディレクター
大友良英



堀尾 寛太 藻岩山での実験風景

<http://siaf.jp>

SAPPORO
INTERNATIONAL
ART FESTIVAL 2017



さっぽろコレクティブ・オーケストラ

芸術祭って
なんだ？

— ガラクタの星座たち —

S
I
A
F



モエレ沼公園



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



SAPPORO
City of Media Arts
Designated UNESCO
Creative City in 2013

2017.5.11現在

ごあいさつ



いよいよ8月に第2回となる札幌国際芸術祭2017を開幕いたします。

札幌市は、2006年に「創造都市さっぽろ」宣言を行い、市民の創造性を活かしたまちづくりを進めています。2013年にはアジア初のメディアアーツ都市としてユネスコ創造都市ネットワークの加盟を果たし、2014年には札幌国際芸術祭を初開催しました。

今回の芸術祭は、ゲストディレクターに音楽家の大友良英氏を迎え、「芸術祭ってなんだ?」という「問い」をテーマに掲げ、多くの皆さまとともに準備を進めております。

もちろん、この「答え」は十人十色です。57日間の会期中、美術や音楽にとらわれずに表現することで、ジャンルを横断していくアーティストの作品やパフォーマンスをご覧ください、答えを見つけ出していただきたいと思います。

会場には美術館だけではなく、公園、都心部の商業施設や動物園なども含まれており、市内各所に点在しています。札幌のまち巡りを楽しみながら会場を訪れていただくことで、札幌の魅力を新たに発見したり、再認識したりしていただけるのではないのでしょうか。

すでに始まっている市民参加型プロジェクトもあり、札幌国際芸術祭2017は多くの方を巻きこみながら、開幕に向けてさらに動きを加速してまいります。

ぜひとも、多くの皆さまに、札幌国際芸術祭2017ならではの作品やパフォーマンスをご鑑賞していただきながら、さわやかな夏の札幌を、あるいは会期後半には早くも秋の気配が感じられる札幌をお楽しみいただきたいと思います。

皆さまのご来場を心よりお待ち申し上げます。

札幌国際芸術祭実行委員会 会長
札幌市長 秋元 克広

目次

02 開催概要

03 エリアマップ

04 札幌国際芸術祭2017 テーマ「芸術祭ってなんだ?」

05 札幌国際芸術祭2017 サブテーマ「ガラクタの星座たち」

06 札幌国際芸術祭2017を巡るサブストーリー
「たった1枚のノイズだらけのレコードから広がる世界だってあるのだ」

08 大風呂敷プロジェクト
札幌大風呂敷チーム×プロジェクトFUKUSHIMA!

09 さっぽろコレクティブ・オーケストラ

10 「RE/PLAY/SCAPE」
大友 良英+青山 泰知+伊藤 隆之/ARTSAT×SIAFラボ/伊藤 隆介/
大黒 淳一×SIAFラボ/ナムジュン・パイク/松井 紫朗/イサム・ノグチ

14 「NEW LIFE：リプレイのない展覧会」
クリスチャン・マークレー/刀根 康尚/EY3/藤田 陽介/鈴木 昭男

16 アジアン・ミーティング・フェスティバル2017 札幌スペシャル
dj sniff/ユエン・チーワイ/灰野 敬二/オーレン・アンバーチ

17 人間の持つスケールを変容させる(タイトルは未定) 毛利 悠子

18 札幌と北海道の三至宝 アートはこれを超えられるか!
レトロスペース坂会館別館/大漁居酒屋てっちゃんサテライト/
北海道秘宝館「春子」/三松正夫の昭和火山火画/北海道の木彫り熊/
赤平住友の炭鉱遺産：坑内模式図

20 「Intention and substance」 端 聡

21 DOMMUNE UNIVERSITY OF THE ARTS
THE 100 JAPANESE CONTEMPORARY ARTISTS
season 5 (略称：DOMMUNE SAPPORO!)
宇川 直宏/篠原 有司男/大友 良英/山川 冬樹/中ザワ ヒデキ/
斎藤 秀三郎/さわ ひらき ほか

22 藻岩山の山頂と、すすきのの地下。札幌を照らす2つの作品
堀尾 寛太

23 《わからないものたち》 梅田 哲也

24 狸小路TV 今野 勉

25 市電プロジェクト～都市と市電～ 指輪ホテル

26 《うろ・うろ・うろ》 さわ ひらき

27 中崎透×札幌×スキー「シュプールを追いかけて」 中崎 透

28 火ノ刺繍―『石狩シーツ』の先へ 吉増 剛造

29 札幌デザイン開拓使
サッポロ発のグラフィックデザイン～栗谷川健一から初音ミクまで～

30 札幌市資料館を拠点としたアートプロジェクト タノタイガ

31 NMAライブ・ビデオ アーカイブ
テラコヤーツセンター「土砂」 テニスコーツ

32 「旅」をテーマにした新作 クワクポリョウタ
コタンベッププロジェクト 五十嵐 淳

33 石川直樹展「New Map for North」
石川 直樹/アヨロラボラトリー

34 岸野雄一 DJプロジェクト 岸野 雄一
I HAVE a DREAM ～ひがし町パーカッションアンサンブル
SIAF2017 オフィシャルバー OYOYO

35 中島公園百物語 斎藤 歩/沢 則行
モバイルアースオープン

36 ゲストハウス×ギャラリープロジェクト
「アートは旅の入り口」
相川 みつぐ/斉藤 幹男/富士 翔太郎/白濱 雅也/酒井 広司/上ノ 大作/
東方 悠平/ワビサビ/南 阿沙美/鈴木 悠哉

37 特別協カプログラム
マームとジプシー10th Anniversary Tour〈札幌公演〉

38 マレウレウ祭り in SIAF2017 ～目指せ100万人のウボボ大合唱～
マレウレウ/OKI/大友 良英/ 原田 郁子/鄭捷任/陳建年/吳昊恩/
章素琳/荻部 絲

39 raprap
マレウレウ/チョン・ヨンドゥ/東海林 靖志/渡辺 はるか/有泉 汐織

40 Asian Sounds Research Presents
OPEN GATE 2017
動き続ける展覧会 ～ An ever-changing exhibition
「何も無いところから」～ start from here
Sachiko M/米子 匡司/水内 義人/chi too/Adam Kitingan/
WinWin/さや/植野 隆司/樋口 勇輝/渡部 勇介 ほか

42 mima 北海道立三岸好太郎美術館 開館50周年記念 特別展
大友良英アーカイブ お月さままで飛んでいく音 +
三岸好太郎ワークス 飛び出す事ハ自由ダ
大友 良英/三岸 好太郎

43 インフォメーションセンター
札幌国際芸術祭2017ボランティア

44 パスポート情報

45 開催スケジュール

46 主要会場へのアクセス

47 会場連絡バス

48 札幌基本情報

※ 掲載情報は、2017年5月現在のものです。開催日時、詳細、料金など、変更になる場合があります。事前にご確認ください。
※ 価格は特別な表記のある場合を除き、消費税8%を含んだ税込価格で記載しています。
※ 本リリース掲載の画像、記事の無断転用を禁じます。
※ **▼**は有料会場を表示しています。(P44参照)

開催概要

名称	札幌国際芸術祭2017 / Sapporo International Art Festival 2017 (略称:SIAF 2017)
開催期間	2017年8月6日(日)～ 10月1日(日)〈57日間〉
テーマ	芸術祭ってなんだ？
サブテーマ	ガラクタの星座たち
ゲストディレクター	大友 良英

主な会場	モエレ沼公園 札幌芸術の森 札幌市立大学 北海道大学総合博物館 JRタワー プラニスホール mima 北海道立三岸好太郎美術館 札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館 狸小路商店街 大通すわろうテラス 金市館ビル りんご 北海道教育大学 アーツ&スポーツ文化 複合施設 HUG	AGS6・3ビル 北専プラザ佐野ビル CAI02 札幌市資料館 札幌市円山動物園 円山公園 札幌宮の森美術館 TO OV cafe/gallery OYOYO まち×アートセンターさっぽろ 大漁居酒屋てっちゃん UNTAPPED HOSTEL WAYA	雪結(yuyu) Ten to Ten Hokkaido Hostel & Kitchen SappoLodge めざましサンド店 THE STAY SAPPORO 札幌ゲストハウスやすべえ 札幌コンサートホール Kitara 扇谷記念スタジオ・シアター ZOO 石山緑地 中島公園 札幌市電 ほか
------	---	---	---

参加アーティスト 2017.6.1現在	ARTSAT × SIAF ラボ	岸野 雄一	陳建年	マレウレウ
	EY3	クリスチャン・マークレー	鄭捷任	三岸 好太郎
	相川 みつぐ	栗谷川 健一	chi too	水内 義人
	Adam Kitingan	クワクポリョウタ	チョン・ヨンドゥ	南 阿沙美
	アヨロバラトリー	今野 勉	dj sniff	毛利 悠子
	有泉 汐織	斎藤 歩	荻部 絲	山川 冬樹
	五十嵐 淳	斎藤 秀三郎	テニスコーツ	ユエン・チーワイ
	イサム・ノグチ	斉藤 幹男	刀根 康尚	指輪ホテル
	石川 直樹	酒井 広司	中崎 透	吉増 剛造
	伊藤 隆介	Sachiko M	中ザワ ヒデキ	米子 匡司
	WinWin	札幌大風呂敷チーム×プロジェクト	ナムジュン・バイク	渡辺 はるか
	植野 隆司	FUKUSHIMA!	灰野 敬二	渡部 勇介
	上ノ 大作	さや	吳昊恩	ワビサビ
	宇川 直宏	沢 則行	端 聡	
	梅田 哲也	さわ ひらき	原田 郁子	赤平住友の炭鉱遺産：
	大黒 淳一×SIAF ラボ	篠原 有司男	東方 悠平	坑内模式図
大友 良英	東海林 靖志	樋口 勇輝	木彫り熊	
大友 良英+青山 泰知+伊藤 隆之	白濱 雅也	富士 翔太郎	大漁居酒屋てっちゃん	
オーレン・アンバーチ	鈴木 昭男	藤田 陽介	北海道秘宝館「春子」	
OKI	鈴木 悠哉	堀尾 寛太	三松正夫の昭和新山火山画	
章素琳	タノタイガ	松井 紫朗	レトロスペース坂会館	

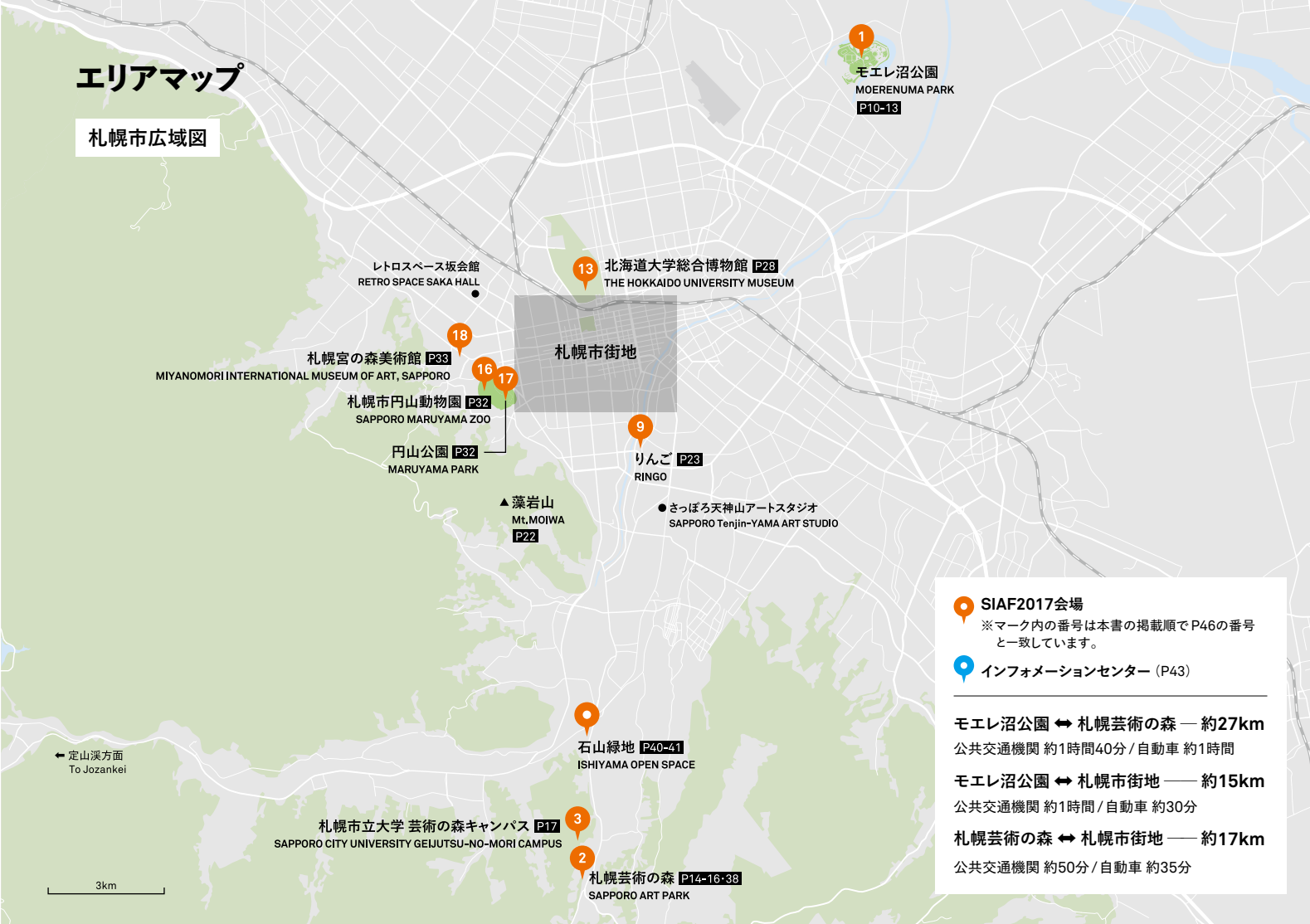
主催 札幌国際芸術祭実行委員会 / 札幌市

助 成：平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業／一般財団法人地域創造／ニトリ北海道応援基金／台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

協 賛：凸版印刷株式会社／北海道ガス株式会社／サッポロビール株式会社／株式会社札幌丸井三越／伊藤組土建株式会社／株式会社大丸松坂屋百貨店大丸札幌店／株式会社アインホールディングス／株式会社アミノアップ化学／日本通運株式会社／株式会社富士メガネ／株式会社藤井ビル／株式会社札幌ドーム／株式会社札幌副都心開発公社

特別協力：札幌駅総合開発株式会社／株式会社ほくせん／株式会社北洋銀行イオン北海道株式会社／株式会社金市館ビル／板谷土建株式会社／株式会社オーク

協 力：エージェン株式会社／札幌狸小路商店街振興組合／札幌駅前まちづくり株式会社／札幌大通まちづくり株式会社／株式会社北海道銀行／株式会社AIRDO／ジェイ・アル北海道バス株式会社／北海道中央バス株式会社／日本空輸株式会社／株式会社札幌都市開発公社／株式会社インテリジェンス／レッドブル・ジャパン株式会社／株式会社北海道エアシステム／ニッポンレンタカー北海道株式会社／株式会社桂和商事／株式会社さっぽろテレビ塔／表示灯株式会社／株式会社ブリズム／一般社団法人札幌ハイヤー協会



ガラクタの
星座たち

札幌国際芸術祭2017 テーマ

芸術祭って
なんだ？

2回目になる札幌国際芸術祭のテーマは「芸術祭ってなんだ?」です。
今回ゲストディレクターへの就任依頼が来たときに、わたしがまず最初にひっきり、そして今も考え続けているのが「芸術祭ってなんなのか」ということです。「芸術」ってなんなんでしょう。それが「祭り」になるってどういうことなんでしょう。

震災後、わたしが取り組んできた活動の中でも、とりわけ大きな比重を占めてきたのが、これまでにない新しい「祭り」の創出でした。ここでいう「祭り」とは単に歌ったり踊ったりの場を作ることではなく、いや、それももちろん重要ですが、なにより、参加する前と後とで世界の見え方が一変するくらいの、そんな強烈な場を自分たちの手で作り出すことが、わたしの考える「祭り」です。今回はここに「芸術」や「国際」、そして「札幌」が加わります。さて、どうしていったらいいものか。そんなことを考えれば考えるほど、これらの問いに対して自分一人で考えて、答えを出すのはもったいないと思うようになりました。市民参加の芸術祭ですから、市民の数だけ答えがあるはずで、こうした問いに対して、正解がひとつである必要なんてないと思います。正解とか、正論を探すのではなく、実際に手を動かし、誰かと何かを作るところから見えてくる何か、感じる何かであったほうがいい、わたしはそう考えています。100人いたら100通りの発想があり、それらが同じ方向を向かなくなっていく。むしろ向かないことで、ときに相互に反応しあいながらノイズが生まれたり、予想もできないとんでもないモノが生まれたり。そして、それを「豊かさ」として受け入れていく大きな度量の芸術祭でなければ、世界の見え方なんて変えられるはずがありません。

でっかい北の大地を舞台にした始まったばかりの芸術祭です。札幌や北海道の人たちがこれまでつくってきたものや、前回の芸術祭の残してくれたものを生かしつつ、耳をすまし、目をこらし、体で感じつつ、おおらかに、ときにやんちゃに、ここでしかできない「芸術祭」をみなでつくっていきませんか。やれ美術ではこうだ、音楽ではこうだなんてことは二の次にして「札幌ではこうだ!」と言えるような新しい「芸術祭」を目指してみませんか。ここで出会ったみなさんとならそれができそうな、そんな素敵な予感がしています。

ゲストディレクター

大友 良英 (日本)
OTOMO YOSHIHIDE

音楽家。1959年、神奈川県横浜市長生まれ。実験的な音楽からジャズやポップスの領域までその作風は多種多様、その活動は海外でも大きな注目を集める。また映画やテレビの劇伴作家としても数多くのキャリアを有する。近年は「アンサンブルズ」の名のもと、さまざまな人たちとのコラボレーションを軸に展示作品や特殊形態のコンサートを手がけると同時に、一般参加型のプロジェクトにも力を入れている。東日本大震災後は十代を過ごした福島でプロジェクトを立ち上げ、現在もさまざまな活動を継続中。2012年には、「プロジェクトFUKUSHIMA !」の活動で芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年、「あまちゃん」の音楽でレコード大賞作曲賞ほか数多くの賞を受賞している。2014年、独立行政法人国際交流基金アジアセンターとともに「アンサンブルズ・アジア」を立ち上げ、音楽を通じたアジアのネットワーク作りに奔走している。

<http://otomoyoshihide.com>

すいません、いきなり「ガラクタ」なんて書くとはびっくりされそうですが、いや実は「ガラクタ」どころか「ゴミ」って書いてもいいかなってくらいなんです、でも札幌で芸術祭をやるときに、この言葉がとっても大切な意味をもつとわたしは思ったので、どうか勘弁してください。

札幌国際芸術祭の話が来たときに最初に引かなかった場所は、モエレ沼公園でした。世界的な美術家イサム・ノグチの遺作でもあり、彼のプレイグラウンドの構想が実現した唯一無二の公園です。ここはかつて広大なゴミ捨て場、まさに「ガラクタの墓場」で、イサム・ノグチがあえてその場所を選んだときのことが「人間が傷つけた土地をアートで再生する。それは僕の仕事です」でした。そもそも、札幌市民の公園にしたいという要望から公園建設がはじまったことと、札幌国際芸術祭がもともと小さな市民運動からはじまったという話が、わたしの中でいつしかリンクしていきました。

イサム・ノグチのモエレ沼公園を「はじまりの地」にしよう。そしてここに自分の作品を対峙させることから今回の芸術祭をはじめてみてはどうか、そう思うようになりました。かつて皆が音楽を聴くために使い、そして今は捨てられてしまったポータブルのレコードプレイヤーを、広大なゴミ捨て場であったモエレ沼公園に置くことから始めてみる。それは自分なりの方法でイサム・ノグチが構想した「再生」を遡ってみることであります。同時に「芸術祭ってなんだ?」と問いかけることで、多くの人たちを巻き込みつつ協働で札幌でしか出来ないような芸術祭をつくっていければ…こうして、わたしなりの芸術祭の方向が見えてきました。

札幌のまちなかを挟んでモエレ沼公園の反対側にある芸術の森には、二十代のわたしに大きな影響を与えたクリスチャン・マークレーをはじめとした、音楽と美術のあいだから生まれた作家たちが作品を展示することになりました。彼らが手掛けるのは、ガラクタだったり忘れ去られたものや、見向きもされなかったものが、まったく新しい姿になって輝き出すような、そんな作品ばかりで、それははからずもイサム・ノグチの言う「再生」に呼応しているかのようです。だったら、それに答える形でモエレ沼公園のほうにもナムジュン・パイクがガラクタからつくった役立たずのロボットを置いてみたり、地下に眠っているガラクタを呼び覚ましてみたりするのもいいかもしれないぞ。アイデアはどんどん共振し共鳴していきます。

そのモエレ沼公園と芸術の森の共振の中心点に位置するのが札幌のまちなかです。本来、美術展示の場所ではない市内のいたるところをも芸術祭の舞台にしてみようということで、多くの市民の皆さんに協力を仰ぎました。

一番のヒントになったのは、札幌で長年独力で博物館をやってきた「レトロスペース坂会館」です。忘れ去られたもの、重要とは思われなかったものたちが、坂会館館長の独特の視点を通して輝きだしている姿もまた、イサム・ノグチの言う「再生」と同じことにわたしには思えました。まちなかには、音楽と美術のあいだだけではなく、テレビに市電、妖怪に食、僕らが日ごろ目にするデザインから民俗学や科学に至るまで、芸術と生活のあいだにある、ありとあらゆる広大な領域を相手にした作品たちに出てきてもらうことにしました。それは、まさに今現在の札幌や北海道そのものでもあり、僕らの住む世界そのものでもあります。そして、ここにあるものもまたモエレ沼公園に呼応するように、自分たちが捨ててきたものに向き合いつつ未来を発見していくような、そんな作品たちばかりです。

というわけで、今回の芸術祭は、とても1日では回れません。そもそもモエレ沼公園を見るだけでも1日がかりなのに、モエレと芸術の森の距離がおよそ25kmもあって、そのくらい広大な範囲に、音楽と美術のあいだや、芸術と生活のあいだにあるような作品が、星屑のようにたくさん点在しています。ひとつひとつはバラバラな作品たちですが、でもそのどれもが呼応しあっているようにわたしには思えます。よく見れば、それぞれが、それぞれのやりかたで、ガラクタだったり、ゴミクズだったり、気づかれないものだったり、忘れられた過去から生まれてきた作品たちです。いち作家が作れるのは星屑の一つにすぎません。でもそんな星屑たちがあつまって星座のように繋がったときにみえてくるものこそが、イサム・ノグチの言っている「再生」なんだと思います。そして、その星座を描くことができるのは、作家ではなく、皆さん自身なんだとわたしは思っています。とても1日で回れないからと、あきらめないでください。どこかを重点的に見ることで見ることでできなかった遠くの星屑の連なり＝星座が見えてくることもあるでしょうし、別の角度から見れば、同じ星たちがまったく違う星座の形をすることだってあるかもしれません。たった一個の星屑だってそこには尊い「再生」の物語があって、それが連なることで、より立体的な星座になっていく。でもその星座は小さくても大きくても、たとえ一個の星でも、それが見る人によってはガラクタだとしてもいいんだと思います。見た人の数だけ星座が生まれる、見た人の数だけ再生の物語がある、それが今回の芸術祭です。さあ、みなさんの星座を描いてみてください。

札幌国際芸術祭2017を巡るサブストーリー

たった1枚のノイズだらけのレコードから 広がる世界だってあるのだ

大友 良英

原点、そして沼山良明

まだ学校に上がる前、子どもだった頃の一
番の楽しみは、横浜の下町にあった母方の実
家で毎週末のようにやっていた宴会でした。近
所の人たちまで一緒になって坂本九を歌ったり、
スーダラ節を踊ったり。美味しい料理に大人達
はお酒、テレビにドーナッツ盤の歌謡曲。そし
てなによりみんなの笑顔。この週末の宴会が
間違いなくわたしの原点です。

その後福島に転校し、十代でフリージャズに
出合って以降は音楽家になることしか考えてい
ませんでした。東京に出たあとは、すぐに日本
のフリージャズを牽引した高柳昌行に弟子入り。
それはちょうど高柳さんがフリージャズからノイ
ズに移行する時期で、とりわけ、その変化が劇
的だったのが前衛ジャズ評論家でオーガナイ
ザーでもあった副島輝人さんが仕組んだ1984
年の北海道ツアーでした。この時わたしはアシ
スタント兼運転手としてツアーに同行しました。
そのため高柳さんの変化に誰よりも大きな影響
を受けたのは、いまでもわたしだと思っています。
そして、このとき札幌公演を企画していた沼山
良明さんとの出会いは、わたしにとって本当に
大きなものでした。沼山さんは当時から私財を
なげうって前衛的な音楽の紹介と企画を札幌
でやり続けていて(わたしのコンサートも幾度も
企画してくれました)、その姿勢や生き方、音楽
を見つめる厳しい視線にどれだけ影響を受け
たことか。これほどまでにピュアな先輩がいるっ
てことが、どれだけ大きな励みになったことか。

クリスチャン・マークレー

音楽を飛び越えてさらに広い意味での芸術、
アートの面白さを知ったのは翌年の1985年。
クリスチャン・マークレーの「Record Without
a Cover」と名付けられたレコードに出合った

ときでした。そのレコードは、本当に裸のまま
むき出しでレコード屋さんに売られていたんで
す。レコードの前半にはほとんど音が入ってな
くて、最初から録音されたレコードの傷の音な
のか、あとからついた本物の傷の音なのか、判
別のつかない作品でした。このノイズだらけの
レコードが、音楽バカだったわたしの脳髄をど
れだけ刺激したことか。「ぼくらが聴いてきた
音楽ってなんだったんだ? それってレコード盤
に刻まれたただのギザギザだったんじゃない
か。そもそも人が演奏することって? 録音って?
メディアって?」たった一枚の傷だらけのレコー
ド盤から、自分の立っている場所を思考しな
おせることを学び、そこからそれまで考えたこ
ともなかったような途方もない世界が見えて
きたような気がしました。これがわたしにとって
アートとの最初の出会いでした。

マークレーに会ってみたい。その夢は予想
以上にはやく実現しました。1987年、マーク
レーが初来日しました。今でこそ美術家として
世界的に知られるマークレーですが、当時は
即興でレコードをコラージュするターンテー
ブル奏者として知られたところで、札幌公演
は沼山さんの企画で実現しました。余談にな
りますが、彼が初めて日本に来た初日の晩に
泊まったのは、よりによってわたしの小さ
なアパートでした。彼には迷惑だったかも
ですが、嬉しかったなあ。

毛利悠子、梅田哲也、堀尾寛太

90年代にはいると、わたしは世界各地で
ターンテーブルやギターで即興演奏をするよ
うになり、マークレーと共演する機会も得、
同時に、中国映画の音楽をやったことが
きっかけとなり、映画やテレビのサウ
ンドトラックも手がけるようになりまし
た。このころはプロフェッショナルな
世界のエキスパートになろうとしていた
んだと思います。ところが、そんなわた
しの大きな

転機となったのが2005年、神戸の「音
遊びの会」という、障がいを持った子
どもたちとの即興演奏のグループに参
加したときのことでした。自分がやって
きたことがここでは全然通用しな
くて、ただただ呆然とするばかり。
なのに当の子ども達の方は、生き
生きと演奏をしているんです。
まいりました。子どもたちの出す
音を前に、これまで自分がこだわ
ってきたものが、なんぼのもの
でもないことを思い知った瞬間
でした。プロもアマチュアも、大
人も子どもも関係なく、とにかく
出会った人たちと向き合いなが
ら音楽をつくってみよう。そんな
ことを思いはじめたのがこの
ときでした。

そして、もうひとつ。2005年は、
当時まったく無名だった若いアー
ティストたちのグループ展に人
生がかわるような衝撃を受けた
年でもありました。毛利悠子、
梅田哲也、堀尾寛太。たまた
ま彼ら彼女らの展示を大阪で
見たときに、本当に人生が
変わるくらいの衝撃を受け
たんです。なにしろ、展示
だっていうのに、常に変化
しつつづけていて全然美術
作品には見えない。巨大な
コイルのようなものが磁
気力で勝手に発電して高
周波を出していたり、巨
大なバルーンの周辺の音
の位相がへんなふうに変
化していて、まるで高い
ところに突然行ったとき
のように耳がつまったり…
そんな音にまつわる現象
のようなものが起こって
いて、それが理屈抜きに
面白くて面白くて。

「これはもしかして、ま
ったく新しい音楽なの
では? それとも、これ
までにないまったく新
しい事態なのかも…」

障がいをもった子ども
達と、謎すぎるこの展
覧会。ふたつの出会い
をきっかけに今まで
稼働してなかった脳
みその領域が突然動
きだしたような感じ
がして、それはマー
クレーの裸のレコー
ドに出合ったとき
以上のインパクトで、
結果的には自分でも
なにかをやらずには
いられなくなり、た
くさんの人たちとわ
いわいやりながら



沼山 良明

→ P31



クリスチャン・マークレー

→ P15



毛利 悠子

→ P17



梅田 哲也

→ P23



堀尾 寛太

→ P22



大風呂敷プロジェクト

→ P08



テニス Courts

→ P31



レトロスペース坂会館

→ P18

つくる《Without Records》や「Ensembles」
展、ほかにも一般の人たちとやる即興オーケ
ストラ等々、以後、数え切れないほどのプロ
ジェクトや展示をやることになり…と、その
辺の経緯は近著「音楽と美術のあいだ」に詳
しいので、ぜひ参照していただければ。

大風呂敷

これで、もうやりたいことはほぼや
ったぞと思っていた矢先にやってきたのが
2011年の東日本大震災でした。福島で
育ったわたしは、全ての活動を一旦中
断してすぐに福島に行き、たくさん
の人たちとともにプロジェクトを立ち
上げ、悩みに悩んだ挙句大きな「祭
り」をやることになりました。放射線
対策もあって多くの人たちと大風呂敷
を縫い合わせて祭りの会場に敷き
詰めたり、楽器経験のない大勢の人
たちとオーケストラをつくったり、
盆踊りをやりだしたり、そんな流れ
の中で「あまちゃん」の音楽をやる
ことになったり、福島から移住して
きた人たちとともに札幌でも盆踊り
をはじめたり。でも、それはこれまで
やってきたことが全部ひっくりかえ
ってしまったというよりは、今まで
やってきたことが全てが渦を巻いて、
切実なものとして迫ってきた感じ
とでもいったほうがいいかもしれません。
結果的にはこの活動があったからこ
そ札幌国際芸術祭から声がか
ったんだと思います。

テニス Courts

その芸術祭をやるにあたって真
っ先に思い浮かんだアーティストが
テニス Courts の二人でした。完成
したものを見せるのではなく、立派
ななにかになるのでもなく、その場
にいる人たちを巻き込みながら、
その場でしかできないなにかを
あれやこれや試しながらやってみ
る。つってみる。そんな彼らの活
動は、震災以降、

わたしにとって、まるで暗闇に
光るちいさな灯台のようにも思
えました。彼らが照らす方向に
かすかに見えるなにかを言葉に
するのはとっても難しいですが、
でも、それは決してプロフェッ
ショナルな世界では見ること
のできない、あの音遊びの会
の子ども達の持っている輝き
そのものようにも思え、また
同時に2005年に大阪でみた
あの謎の展示の音楽版のよう
にも思え、わたしにとっては
「芸術祭ってなんだ?」の答
えのようにすら思えました。
彼らみたいな芸術祭をや
ってみたいなあ。

テニス Courts には会期中、
ずっと札幌にいて自由に動い
てもらおうと思っています。事
前に決められたものをつくら
たりやったりするのはなく、
芸術祭に即興的に反応しなが
ら、見えてきたものを地元
の人たちとともにシェアして
いくような、そんな役目を
担ってもらえたら最高だ
なあって。

「芸術祭ってなんだ?」という問いを 今もう一度とらえてみる

この問いに対して、当初は、
芸術が集まって祭りになる
という素朴なイメージをも
っていました。でも途中か
らちょっと違う考え方をし
てきました。それは、祭り
そのものを自分たちの手
でつくっていくなかで、
見えてきたものを芸術
と呼んだほうが、本来の
芸術のありかたに近い
のではということです。
震災後の福島で必要に
迫られて敷いた風呂敷
から大風呂敷プロジェクト
が生まれたように。ある
いは、テニス Courts
の照らす光の先に見
える何かのように。ず
っと前から坂本九が
大好きで、高校でフ
リージャズにかぶ
れ、高柳さんや沼
山さん、クリスチ
ャン・マークレー
に出会ったことで
人生が大きく変
わったノイズ青
年が、30年後に
大風呂敷を皆で
縫い合わせて
盆踊りをやる
ことにな
るなんて、
少なくとも、
本人にと
っては、ま
ったく

予想もつかなかったこと
です。人、音楽、アート、
そして震災と祭り、あ
らゆるものとの出会い
が、わたしの人生をつ
くってきたんだと思
います。わたしだけ
じゃなく、ひとりひと
り、みな異なる歴史
をもっているわけ
で、そんなもんが、
カオスのように一
緒くたになって、
過去も未来も飛
び越えて笑いなが
ら祭りの体をして
いる…これが
わたしにと
っての芸術
祭のイメ
ージです。

大風呂敷プロジェクトも、
地元の子
ども達と
つくる「さ
っぱろコレ
クティブ・
オーケス
トラ」も、
クリスチ
ャン・マ
ークレー
、毛利悠
子、梅田
哲也、堀
尾寛太ら
に作品を
つくって
もらうの
も、沼山
さんのア
ーカイブ
も、ここ
に書いて
きたよう
に極めて
個人的な
わたしの
歴史の中
から出て
きた企画
のアイデ
アです。でも、
これをわ
たし個人
の歴史の
中に収め
てしまう
のではなく
、それ
に対して
見る人た
ちがどん
どん化学
反応を起
こしてい
けるよう
な仕掛け
をつくる
ことで、
芸術祭は
生きたも
のになっ
ていくん
じゃない
かって思
うように
なってき
ました。そ
の大きな
ヒントに
なったの
が、札幌
が誇る文
化遺産で
あるモエ
レ沼公園
の成り立
ちであっ
たり、沼
山さんが
、札幌で
長年活動
をしてき
た軌跡
であり、
レトロ
スペース
坂会館が
長年やっ
てきたこ
とでもあ
ると思っ
ています。

たった1枚のノイズだらけ
のレコード
から広がる
世界だっ
てあるわ
けで、そ
んな個人
の経験が
札幌と化
学反応を
起こし、
さらには
そんな化
学反応が
、この芸
術祭に参
加した人
の数だけ
集まった
ときに、
札幌にし
かない芸
術祭の姿
が見えて
くるん
だと思
います。

大風呂敷プロジェクト

展示 イベント 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：JRタワーコンコースほか市内各所に展示。**SIAF2017**のイベント会場にも随時登場
時間：各会場に準ずる

協力：札幌駅総合開発株式会社、株式会社北洋銀行、イオン北海道株式会社、札幌駅前通まちづくり株式会社

布を集めて縫い合わせ、パッチワーク状の大風呂敷をつくって広げる大風呂敷プロジェクトは、「市民と一緒につくる芸術祭」を象徴するプロジェクトです。布を提供する、ミシンで縫う、広げるなど、いろいろな関わり方ができ、そうしたオープンなプロセスを経て完成するカラフルな大風呂敷は、広げれば一瞬にして目の前の景色をハレの場に変える力を持っています。

もともと大風呂敷は、東日本大震災が起こった2011年、「プロジェクトFUKUSHIMA!」が福島県で開催した野外フェスティバルをきっかけに生まれました。原発事故によって分断された人々の意識を新たにつなぎ直すかのように、色も模様も素材も違う大小の布が縫い合わされた大風呂敷は、考えも立場も違う多様な人々がどのように共存できるのかを問う、プロジェクトのテーマを表すビジュアルアイコンとなりました。

その後、福島県のみならず、日本各地へ広がり、札幌でもSIAF2014の特別プログラムとして北3条広場での盆踊りを機に大風呂敷づくりがスタート。SIAF2017では、都心部のビルの一室にある、おどおり大風呂敷工場を拠点に、子どもから大人まで多くの人が参加して大風呂敷づくりが進んでいます。

震災後の福島から始まり、常に更新されながら続く大風呂敷プロジェクトを、SIAF2017では過去最大規模で展開します。つなぎ合わされた大風呂敷が広がり、そこに人々が集う光景は、プロもアマも一緒につくり上げる表現というSIAF2017の考え方を象徴する風景といえるでしょう。会期中は、大風呂敷が常設で市内各所に掲示されるほか、オープニングやクロージング、マレウレウ祭りをはじめ、さまざまなイベントの機会に大風呂敷を広げ、SIAF2017を盛り上げます。



さっぽろ八月祭2017／撮影：ハレハレイン

さっぽろ八月祭2017

8月4日(金)・5日(土)
会場：札幌市北3条広場(アカプラ)
時間：8月4日(金)14:30－21:30(予定)
8月5日(土)12:00－21:00(予定)

主催：札幌駅前通地区活性化委員会
(事務局：札幌駅前通まちづくり株式会社)
共催：札幌国際芸術祭実行委員会

SIAF2014で行われた「フェスティバル FUKUSHIMA! 北3条広場で盆踊り」を引き継ぎ、2015年、札幌駅前通地区に新たに誕生した「さっぽろ八月祭」。2016年の八月祭では、SIAF2017の開催1年前を記念して、市民から集めたフレーズをもとにゲストディレクターの太友良英が作曲した「さっぽろ八月祭音頭」をお披露しました。今年の八月祭は8月4・5日に行われ、この音頭をはじめ、バンドの生演奏による盆踊りが行われるほか、誰もが楽しめるイベントや縁日が盛りだくさん。そして、2日目の8月5日は、SIAF2017前夜祭と位置付け、芸術祭の開幕を盛り上げます。

札幌大風呂敷チーム × プロジェクトFUKUSHIMA! 〈日本〉
SAPPORO O-FUROSHIKI TEAM × PROJECT FUKUSHIMA!

<http://sapporo-ofuroshiki.blogspot.jp> <http://www.pj-fukushima.jp>



プロジェクトFUKUSHIMA!は、東日本大震災後、福島の現在と未来を世界に発信することを目的に福島県内外の有志によって結成(当初の代表は音楽家の太友良英、遠藤ミチロウと詩人の和合亮一)。2011年より毎年8月、巨大パッチワーク「大風呂敷」を広げて開催する「フェスティバル FUKUSHIMA!」を中心に、ネット放送局DOMMUNE FUKUSHIMA!の運営など、さまざまな活動を通して福島の今を更新し発表し続けている。また大風呂敷を広げた祭りは近年、愛知、池袋、多治見など全国へ拡散中。札幌大風呂敷チームは2014年、SIAF2014特別プログラム「フェスティバルFUKUSHIMA! 北3条広場で盆踊り」を機に始動。大風呂敷づくりに集まった人々がゆるやかにつながり、現在、多くの市民を巻き込みながら、都市部にあるおどおり大風呂敷工場を拠点に活動している。今回はプロジェクトFUKUSHIMA!のメンバー(山岸清之進[現代表]、中崎透、アサノコウタ、小池晶子ほか)と札幌チームが協働し、SIAF2017の会期中を通して札幌各所を彩る大風呂敷を展開する。



撮影：山崎 清之進



さっぽろコレクティブ・オーケストラ

公演 8月27日(日)

会場：札幌コンサートホール Kitara 大ホール | **時間：**開演16:00 ※開場は15:30
コンダクター：太友 良英 | **演出協力：**藤田 貴大 | **演奏：**さっぽろコレクティブ
プログラム・ディレクター：有馬 恵子

さっぽろコレクティブ・オーケストラは、小学生から18歳までの「誰でも」が、能力や経験にかかわらず参加できるオーケストラです。ここでは技術を向上させることや、正確に演奏することが求められているわけではありません。また、一般的なオーケストラのように、作曲家や指揮者が中心となって全体をつくりあげていくものでもありません。年齢も経験も異なる参加者たちが、一人ひとりの音を互いに尊重しながら、「今、ここ」で出会う他者との関係性の中から出来上がっていくオーケストラです。

2016年には、さまざまな分野の方を講師として迎え、複数回のワークショップを開催しました。2017年は、8月27日の本番に向けて、太友良英、藤田貴大、そして参加する子どもたちみんながワークショップを重ねながら、画期的なオーケストラをつくりあげていきます。



札幌コンサートホール Kitara
SAPPORO CONCERT HALL KITARA
札幌市中央区中島公園1-15

1997年に中島公園内にオープンし、今年開館20周年を迎える音楽専用ホール。アリーナ型の大ホールとシューボックス型の小ホールを備えており、国内外の一流演奏家のみならず、吹奏楽や合唱、アマチュア・オーケストラなど熱心な市民の音楽活動の発表の場としての存在感も大きい。

「RE/PLAY/SCAPE」

展示 ¥ 8月6日(日)－10月1日(日)

会 場：モエレ沼公園

時 間：10:00－17:00 (土、8/11(金・祝)、9/17(日)は19:00まで)

休館日：9/9(土)

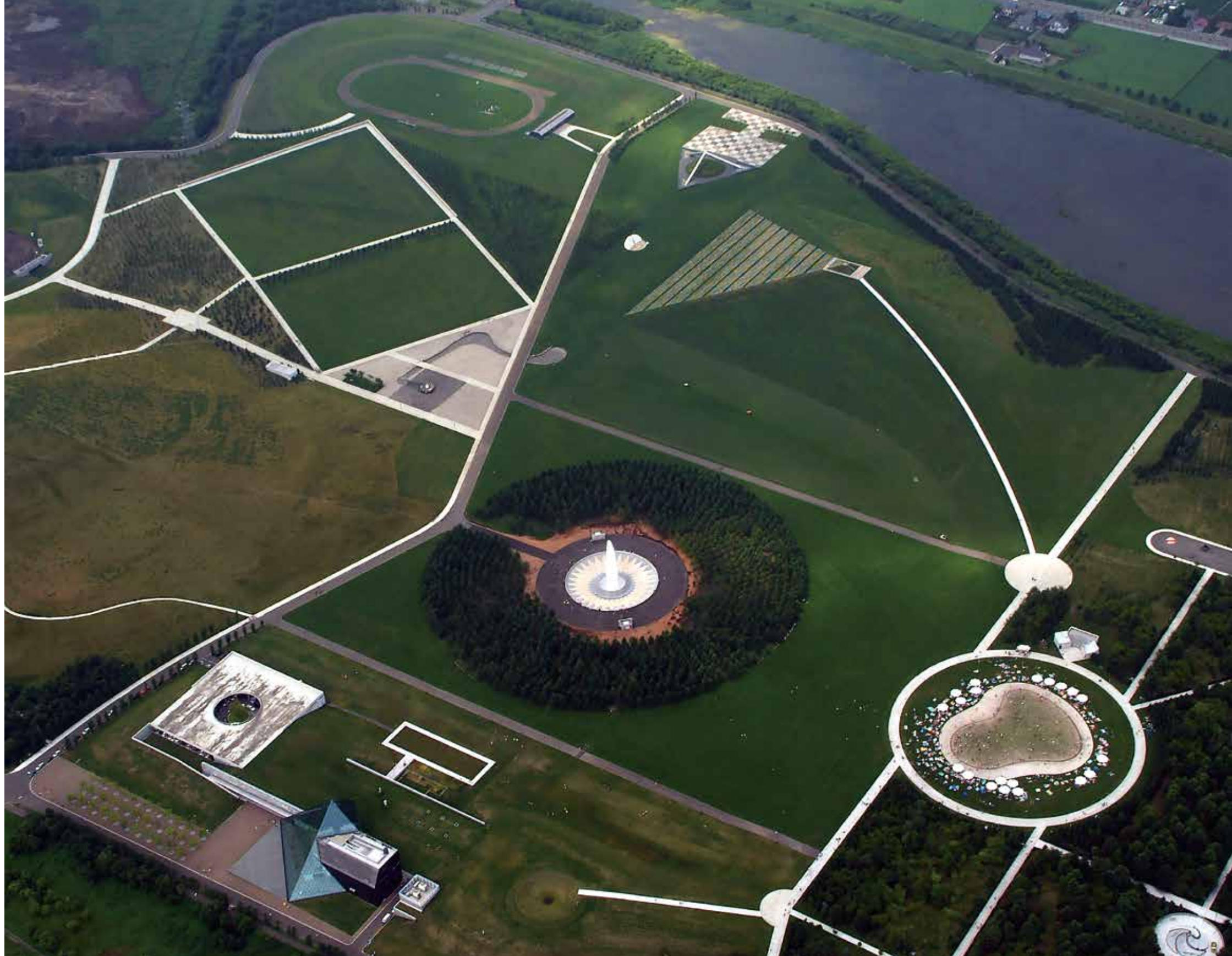
共催：公益財団法人 札幌市公園緑化協会

協力：公益財団法人イサム・ノグチ日本財団、山口情報芸術センター[YCAM]、ワタリウム美術館

モエレ沼公園会場では、公園の象徴であるガラスのピラミッドを拠点として、モエレ沼公園の歴史と彫刻家イサム・ノグチの視点を現代へつなぐプロジェクトを展開します。

屋内空間では大友良英＋青山泰知＋伊藤隆之による百台以上もの中古のレコードプレーヤーを使用した作品《without records》の新作をモエレ沼公園バージョンとして発表。本作を中心に、さまざまな作家がコラボレーションします。松井紫朗による有機的な構造であるバルーン状の彫刻作品や、かつて公園が不燃ゴミの最終処分場であったという歴史に焦点をあてた伊藤隆介によるジオラマの映像作品、それに呼応するように配置されるナムジュン・パイクのアートロボット《K-567》など、それぞれが少しずつ関わり合いながら、モエレ沼公園という場をひもといていきます。また、ARTSAT×SIAFラボは、宇宙の入口である成層圏をフィールドに作品を発表。ノグチが公園設計に込めた宇宙規模のコンセプトをテレコーディングという手法で作品化します。屋外では大黒淳一×SIAFラボが、会場内の風や温度などの環境データを利用した音響彫刻を展開。これらの技術開発は、継続的に活動を行っているSIAFラボのテクニカルチームが支えます。

ノグチの生み出した壮大な彫刻作品の中でこれらの作品に対峙することで、言語が紡ぎ出す世界の外側にある、未知の感覚を体験することができます。ノグチのインスピレーションに満ちたこの場(=Playscape)が、今を生きる作家のインスピレーションによって新たに再生(=Replay)される。モエレ沼公園が新しい創造の舞台となります。



モエレ沼公園 MOERENUMA PARK

札幌市東区モエレ沼公園1-1

世界的な彫刻家イサム・ノグチ(1904～1988年)が基本設計を行い「公園全体をひとつの彫刻作品」とするダイナミックな構想により造成が進められたのがこのモエレ沼公園です。1982年に着工し、2005年にグランドオープンしました。189ヘクタールにおよぶ広大な敷地には、石狩平野を囲む山脈を一望できるモエレ山や、最大25メートルまで吹き上がる「海の噴水」など、幾何学形態を多用した施設が整然と配置され、自然とアートが融合した美しい景観を楽しむことができます。ノグチの遺作ともなるこの公園は、札幌が世界に誇る施設のひとつです。



大友良英+青山泰知+伊藤隆之《without records - motiver》2015年 撮影：丸尾 隆一



伊藤隆介《Realistic Virtuality (Field Watcher)》2014年



松井紫朗《The Inside's Outside》2008年

大友 良英 + 青山 泰知 + 伊藤 隆之 〈日本〉
OTOMO YOSHIHIDE + AOYAMA YASUTOMO + ITO TAKAYUKI
共同開発：山口情報芸術センター[YCAM]

青山 泰知 〈日本〉
AOYAMA YASUTOMO



撮影：伊藤 トオル
ヤル

1960年旭川市生まれ。宮城県仙台市在住。美術家として活動するほかに、ライブ、DJなどの音楽活動も行う。1995年から続く大友良英とのコラボレーションには、音楽ユニット「DJ TRANQUILIZER」やインスタレーション作品《without records》などがある。

大友 良英 〈日本〉
OTOMO YOSHIHIDE
➡ P04参照



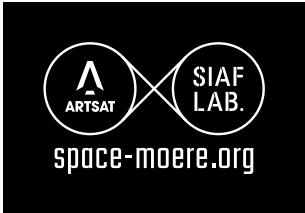
撮影：佐藤 順

伊藤 隆之 〈日本〉
ITO TAKAYUKI



2003年、YCAMの開館準備室に着任。以降、数多くの作品制作に関わる。2009年、文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨークへ渡り、1年間滞在。ザッカーリー・パーマンのもとで、オープンソースの視線検出ソフトウェア / ハードウェア「EyeWriter 2.0」の開発に携わる。帰国後は、YCAM InterLab R&Dディレクターとして、YCAMの研究開発プロジェクト全般のディレクションを担当。2015年、アーティストック・リサーチ・フレームワークBCLに参加。

ARTSAT×SIAFラボ 〈日本〉
ARTSAT×SIAF LAB.
http://space-moere.org



「衛星はメディアである」をモットーに、宇宙の文化芸術活用を推進するプロジェクトARTSAT:衛星芸術プロジェクトは、2010年、多摩美術大学と東京大学のコラボレーションから活動開始。2014年2月、世界初の芸術衛星《ARTSAT1: INVADER》の打ち上げに成功し、続く同年12月には「はやぶさ2」との相乗りで、地球の引力圏を脱出する深宇宙彫刻《ARTSAT2: DESPATCH》を惑星軌道に投入し、最速で470万km（月までの距離の約12倍）からの電波の受信に成功した。2015年アルスエレクトロニカでHYBRID ART部門優秀賞をチーム受賞。平成27年度芸術選奨大臣賞（メディア芸術部門）を久保田晃弘が受賞。今回のSIAF2017では、久保田晃弘（リーダー）、堀口淳史、中澤賢人、宇佐美尚人、橋本論らが参加し、SIAFラボの小町谷圭、船戸大輔、金井謙一、石田勝也らと共同でプロジェクトチームを結成する。また、展示のアーティストックディレクターには平川紀道、さらにサウンドやプログラミングで矢坂健司、田所淳、藍圭介らが参加することが追加決定している。

大黒 淳一 × SIAFラボ 〈日本〉
OGURO JUNICHI × SIAF LAB.
http://junichioguro.com
http://siaf.jp/siaflab/



1974年札幌市生まれ。サウンドメディアアーティスト。実験音響とアンビエントのレーベル“43d”主宰。2006年、音楽の制作活動のために渡独。ヨーロッパ各地で商業音楽から音響空間設計まで幅広い作曲活動を行うようになる。その後北京オリンピックや上海万博のパビリオンの音楽を担当。サウンドアーキテクトとして音響建築プロジェクトに携わり、今冬にはゲストアーティストとしてドイツのZKMでプロジェクトを実施するなど活躍の幅を広げている。近年は、現代美術のフィールドで、新たな「音」の可能性を追求する作品を発表。本展では、SIAFラボから石田勝也、船戸大輔が参加し、システムの設計、ソフトウェアの開発など作品制作のサポートを行う。

松井 紫朗 〈日本〉
MATSUI SHIRO
http://www.shiromatsui.com



撮影：小牧 希里

1960年奈良県天理市生まれ。京都市立芸術大学教授。1983年の初個展以来、多様な素材、ユーモアと理知を備えた独自の立体造形で、関西ニューウェイブを担う若手のひとりとして注目を集める。1991年よりシリコンバレーによる作品制作を開始。1997年にテント用の素材を使った大作《The Way to the Artwork is Through the Stomach》を発表後、ナイロン素材のバルーンを使ったサイトスペシフィックな作品を次々と展開。自然科学の原理を応用した作品で、人間の知覚や空間認識に揺さぶりをかける。JAXA（宇宙航空研究開発機構）との共同実験では宇宙での庭作りや、容器に詰めた宇宙空間の持ち帰りを試みる。2014年よりアートプロジェクト「手に取る宇宙 地上ミッション」を各地で展開している。

伊藤 隆介 〈日本〉
ITO RYUSUKE
http://www.ne.jp/asahi/r/ito/



1963年札幌市生まれ。映像作家・美術作家。映像メディアの物質的な特性をテーマに、映画フィルムを産業的廃材として、コラージュ・モンタージュする実験映画、ミニチュア・セットと撮影映像を並置、比較するビデオ・インスタレーションなどを制作している。主な個展に「天神洋画劇場」（三菱地所アルティウム、2016年）、「All Things Considered」（札幌宮の森美術館、2014年）、「Cinema 2.0: Ryusuke Ito's Cinematic Machine」（香港アートセンター、香港、2011年）など。国内外での映画上映は多数。また、1980年代から村雨ケンジ名義でマンガ批評やサブカルチャーについての評論も数多く執筆している。

ナムジュン・パイク 〈韓国／米国〉
NAM JUNE PAIK



「ロボットK-5672/インク」(1988年)
写真提供：ソウルウム美術館

1932年京城（現在のソウル）生まれ、2006年マイアミで没。東京大学文学部美学・美術史料を卒業後、現代音楽を学ぶべく渡独。ジョン・ケージやジョージ・マチュナスとの出会いから、国際的な芸術運動フルクサスへと参加。1963年に世界初のビデオアート作品を発表。1964年にニューヨークへ渡り、《ロボット・オペラ》でジャールロット・モーマンと共演。1984年にはリアル・タイムで双方向通信を行うサテライト・アート《グッド・モーニング、ミスター・オーウェル》を発表。同年、東京都美術館で個展を開催。1993年第45回ヴェネツィア・ビエンナーレ(1993年)金獅子賞受賞。2000年にはニューヨーク・グッゲンハイム美術館で大回顧展が開催された。

イサム・ノグチ 〈米国〉
ISAMU NOGUCHI

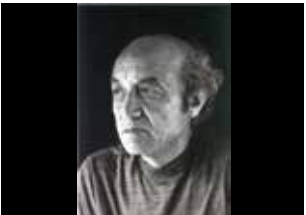


Photo: Michio Noguchi
写真提供：公益財団法人イサム・ノグチ日本財団

1904年ロサンゼルス生まれ、1988年ニューヨークで没。英文学者で詩人の野口米次郎と、教師で編集者のレオニー・ギルモアとの間に生まれ、少年期を日本で過ごす。渡米して彫刻家を志したのち、アジア・ヨーロッパを旅して学び、パリでは彫刻家ブランクーシの助手を務めた。ニューヨークに拠点を定めてからは、彫刻家として活動するかわら、家具のデザインや舞台美術の制作、庭園やプレイグラウンドなどのランドスケープデザインにまで及ぶ、幅広い活動を世界中で展開。第2次世界大戦後は自身のルーツである日本にも頻繁に訪れ、陶芸彫刻や、和紙を使った《AKARI》のデザインを生み出した。最晩年の1988年にはモエリ沼公園の公園計画に参加。ノグチが亡くなった後も計画は引き継がれ、2005年に「公園全体がひとつの彫刻作品」という世界でも類を見ないアートパークが完成した。

「NEW LIFE：リプレイのない展覧会」

展示 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：札幌芸術の森
美術館〈クリスチャン・マークレー、刀根康尚、鈴木昭男〉、
工芸館〈EY3〉、有島武郎旧邸〈鈴木昭男〉
時間：9:45－17:30(最終入場17:00) ※9/1(金)以降 9:45－17:00(最終入場16:30) | 休館日：無休

札幌芸術の森会場は、点在する建物とともに、野外美術館も含めた広大な森全体を使って展開します。

芸術の森美術館には、世界的に最も注目される現代美術のアーティストの一人であり、ターンテーブルなど録音メディアを使った演奏の先駆者であるクリスチャン・マークレーと、前衛芸術家として60年代から伝説的な活動を展開してきた刀根康尚。工芸館には、ロック・バンド、ボアダムスの中心人物として知られ、ビジュアル・アーティストとしても各界に大きな影響力を持つEY3。森の中には、サウンド・アートの先駆者であり、場と音についての独自の探求を続けてきた鈴木昭男と、森羅万象を楽器として音響空間を生み出してきた藤田陽介がそれぞれ作品を設置。いずれも音を表現の入り口として、唯一無二の活動を続けてきたアーティストたちです。

光を闇の存在によって浮かび上がらせるように、彼らは、過去の時間を蘇らせる手段としてのメディアの機能を問い直しながら、いま、ここにしか存在しない感覚の領域へと分け入って行きます。彼らの作品を通して、「再生」という言葉が、単なる過去の再現ではない、その都度現れる鮮烈な生の瞬間の連続として捉え直されたとき、「展覧会」という形式も、共有のための新しい環境として更新されていくはずです。



札幌芸術の森 SAPPORO ART PARK

札幌市南区芸術の森2丁目75

札幌芸術の森は、北方の新しい芸術・文化の創造を目指すため、1986年7月にオープンしました。豊かな自然環境のなかにある広さ40ヘクタールにおよぶ敷地には、さまざまな展覧会を開催する「札幌芸術の森美術館」や季節の移り変わりとともに64作家74点の彫刻作品を楽しめる「野外美術館」、クラフト作品などの展覧会が開催される「工芸館」のほか、「クラフト工房」や「アートホール」など、鑑賞、発表、制作、研修、練習などの機能を備えた各種芸術施設が点在しています。

クリスチャン・マークレー

〈スイス/米国〉

CHRISTIAN MARCLAY



The Daily Eye

30年以上にわたり、彫刻、映像、写真、コラージュ、音楽、パフォーマンスなど多様なメディアの作品を制作し、視覚と聴覚との結びつきを探り、その作品は世界各地で展示されている。ボーカリストのデヴィッド・モスとのデュオとして、1987年に初の日本ツアーを行い、以降は日本でも定期的にビジュアルワークを展示。第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2011年)において24時間に及ぶ映像作品《The Clock》を展示し、金獅子賞を受賞。同作品は2010年のロンドンでのプレミア以降、世界20カ所以上の会場で展示されている。サウンド・コラージュを作り出すターンテーブル演奏のパイオニアであり、1979年以降、ソロ活動のほか、ジョン・ゾーン、エリオット・シャープ、大友良英、パッチ・モリス、シェリー・ハーシュ、オックヨン・リー、マッツ・グフタフソン、リー・ラナルドなど、数多くのミュージシャンとコラボレーションしている。

刀根 康尚 〈米国〉

TONE YASUNAO



Jacob Polacek / Thyssen-Bornemisza Art Contemporary

1935年生まれ。作家、批評家、作曲家。1960年代初頭、「グループ・音楽」を共同で設立。1962年よりフルクサスで活動。1972年より渡米、ニューヨークやヨーロッパにおいて電子音楽の実験的な動向を巻き込みつつ、数々の重要なイベントを主催、参加する。「パラメディア・アート」という概念を提唱、作曲家として、電子音楽、コンピュータ・システム、映画、ラジオ、テレビ、環境芸術といった多様な領域で作品を発表。これまでに、ニューヨークのキッチン、ニューヨーク近代美術館、ホイットニー美術館、パルセロナ現代美術館などでコンサートを開催。第44回ヴェネチア・ビエンナーレ(1990年)、From Postwar to Postmodern: Art in Japan 1945-1989(ニューヨーク近代美術館、2012年)、横浜トリエンナーレ(2001年)などに参加。アルスエレクトロニカでゴールドエニカ(最優秀賞)、Foundation for Contemporary Artsの音楽部門受賞。

藤田 陽介 〈日本〉

FUJITA YOSUKE

<http://fujita-yosuke.moo.jp>



撮影：白井 輝幸

広島県生まれ。香川県出身。音楽家。2009年、空想を具現化した完全自作のバイブオルガンを製作。その自作バイブオルガンと声(ホーメイやイヌイットの特珠歌唱など)を主軸に、水や火、生物から新しい音を見出すことに関心を持ち、常に多様なメディアや事象を音楽に取り込んでいる。ソロの活動を中心に、EY3(ボアダムス)とのコラボレーション舞台「メモリーム」や、山川冬樹との公演「カントリー・ジェントルメン」など、コラボレーション・ワークも多数。映画音楽やアニメーション音楽の制作、サウンド・インスタレーションといった展示活動など、あらゆる領域で作品を発表する。



クリスチャン・マークレー〈Studies for Variations on a Silence (project for a recycling plant) Tokyo〉2005年
© Christian Marclay / Courtesy of Gallery Koyanagi, Tokyo and Paula Cooper Gallery, New York

EY3 〈日本〉



80年代初頭より重機などを用いたパフォーマンスで注目を集めた後、1986年、ボアダムスを結成。ソニック・ユースとの共演をきっかけに米国に進出、世界的なアンダーグラウンド・シーンに影響を与える。以降現在まで、ボアダムスの中心メンバーとして実験的なパフォーマンスを展開。2007年にはニューヨークで77名のドラマーとともに「77 BOA DRUM」、2008年にはロサンゼルスで「88 BOA DRUM」を開催。個人名義では、大友良英のユニット「GROUND ZERO」に参加したほか、ジョン・ゾーン、ビル・ラズウェルなど多数のアーティストと精力的に共演、DJとしても活躍。ヴィジュアル・アーティストとしては、BECKの『Midnite Vultures』(1999年)のジャケット・イラスト制作で知られるほか、『NANOO』(1996年)、『ONGALOO』(2006年)などの画集を出版、P.S.1など世界各地の展覧会にも参加。大竹伸朗とのユニット「PUZZLE PUNKS」としても活動している。

鈴木 昭男 〈日本〉

SUZUKI AKIO

<http://www.akiosuzuki.com>



1941年生まれ、京都府京丹後市在住。1963年より「自修イベント」としての独自の探求をはじめる。1970年にエコー音器 ANALAPOSを創作。1978年、フェスティバル・ドートンヌ・バリを機に「コンセプチュアル・パフォーマンス」を始める。1988年、子午線上の京都府網野町で「日向ぼっこの空間」を発表し、一日自然の音に耳を澄ます。1996年に開始した街のエコーポイントを探る「点音(おとだて)」プロジェクトを世界30都市以上で開催。日常のさまざまな素材から音を導き出しての演奏でも知られ、即興演奏家とのコラボレーションも多い。ドクメンタ8(ドイツ、1987年)、ドナウエッシンゲン現代音楽祭(ドイツ、1998年)、大英博物館(イギリス、2002年)、ザツキン美術館(フランス、2004年)、AV・フェスティバル(イギリス、2014年)など、世界各地の美術展や音楽祭に招待されている。



クリスチャン・マークレー〈Ascension〉2005年
© Christian Marclay / Courtesy of Gallery Koyanagi, Tokyo and Paula Cooper Gallery, New York
Photo: Osamu Watanabe



鈴木 昭男〈NOISELESS〉(2007年) 京都国立近代美術館

アジアン・ミーティング・フェスティバル2017 札幌スペシャル

ライブ ￥ 9月23日(土・祝)・24日(日)

会場：札幌芸術の森 大練習室 | 時間：23日(土・祝)開演17:00、24日(日)開演15:00 | 料金：2,000円(パスポート提示で無料)

出演：dj sniff、ユエン・チーワイ ほか | スペシャルゲスト：灰野 敬二(23日)、オーレン・アンバーチ(24日)

主催：札幌国際芸術祭実行委員会 / 札幌市、国際交流基金アジアセンター 共催：P3 art and environment

日本とアジアのミュージシャンをもっと交流させたいという思いから、大友良英が2004年に始めた「アジアン・ミーティング・フェスティバル」。

2014年からは「アンサンブルズ・アジア」*の一部門として、シンガポールのユエン・チーワイと香港在住のdj sniffがキュレーションに加わり開催され、実験音楽・即興音楽・ノイズの分野におけるアジア有数のフェスティバルとして知られています。2017年もアジア各地からアーティストが来日し、福岡、京都、仙台での公演を経て札幌で一大フィナーレを迎えます。札幌公演では、地元のアーティストも参加するほか、スペシャルゲストに灰野敬二とオーレン・アンバーチを迎え、二日間にわたって様々な組み合わせや編成での演奏を行います。また、7月には実験音楽に触れるためのワークショップを開催する予定です。

http://asianmusic-network.com

*国際交流基金アジアセンターとP3 art and environmentが共催する、アジアの新たな音楽の可能性を世界に発信するプロジェクト。 http://ensembles.asia

dj sniff 〈香港〉

http://www.djsniff.com



Photo: Vivian Wan/Lin

1978年生まれ。ターンテーブル奏者、DJ、キュレーター。オランダ、アムステルダムのSTEIM電子楽器スタジオで長年アーティストックディレクターとしてリサーチ、キュレーション、レジデンシープログラムを任せられ、100以上のコンサートプログラムおよびアーティストプロジェクトを企画 / 製作。演奏家としてはターンテーブルと独自の演奏ツールを組み合わせながら実験音楽 / インプロビゼーション / 電子音楽の分野で活動。これまでにCTM Berlin、Warsaw Autumn、Flow Festival Helsinki、REDCAT LA、March Meeting Sharjah、Jazz em Agosto Lisbon、台北TranSonic、Platforma Moscowなどへ参加するほか、世界中のレーベルから作品をリリースしている。現在は香港に拠点を移しアンサンブルズ・アジア / アジアン・ミュージック・ネットワークのプロジェクトディレクターと香港城市大学創意媒體學院で客員助教授を務めている。

23日スペシャルゲスト

灰野 敬二 〈日本〉

HAINO KEIJI

http://www.fushitsusha.com



Photo: Kazuyuki Furuki

1952年千葉県生まれ。1970年、エドガー・アラン・ポーの詩から名を取ったグループ「ロスト・アラーフ」にヴォーカリストとして加入。また、ソロで自宅録音による音源制作を開始、ギター、パーカッションを独習する。1978年にロックバンド「不失者」を結成、ハードロックにまったく新しい強力な次元を切り開く。1983年から87年にかけて療養のため活動休止。1988年に復帰して以来、ソロのほか不失者、滲有無、哀秘謡、静寂、Vajra、サンヘッドリン、Nazoranai、Hardy Soulなどのユニット、Experimental Mixture名義でのDJ、セッションや他ジャンルとのコラボレーションなど多様な形態で国際的に活動を展開。ギター、パーカッション、ハーディ・ガーディ、各種管弦楽器、各地の民間楽器、DJ機器などの性能を研ぎ澄まされた身体性と独自の演奏技術で極限まで引き出し生み出される比類のない音は、超越なきシャーマニズム、荒れ狂う知性と認識に満ちている。170点を超える音源を発表し、確認されただけでも1500回以上のライブ・パフォーマンスを行っている。

ユエン・チーワイ 〈シンガポール〉

YUEN CHEE WAI

http://www.theobservatory.com.sg



Photo: Philipp Aldrup

シンガポールを中心として活動している音楽家、芸術家、デザイナー。即興的な創作を通じて、音やイメージ、言葉との関係を探求している。2008年に、大友良英(日本)やリュウ・ハンキル(韓国)、ヤン・ジュン(中国)とFEN(Far East Network)を結成。FENでの音楽活動は、アジア間での学際的な共同創作に焦点を当てている。アンサンブルズ・アジア/アジアン・ミュージック・ネットワークでは、共同ディレクターとして、アジアン・ミーティング・フェスティバルに参加。東南アジアとの結びつきを強めることで、数多くの東南アジアと世界中のミュージシャンとの新しいコラボレーションの橋渡しを成功させてきた。また、シンガポールの前衛的・実験的なロックバンド「The Observatory」の中心メンバーとしてギター、シンセサイザー、エレクトロニクスを担当。現在までに10枚のアルバムをリリースしている。

24日スペシャルゲスト

オーレン・アンバーチ

〈オーストラリア〉

OREN AMBARCHI

http://orenambarchi.com



photo: crys cole

アンバーチの音楽は電子音楽 / 即興音楽 / ミニマルリズム、シンプルを装いつつ時間を宙づりにするようなモートン・フェルドマンやアルヴィン・ルシエの作曲作品、そして極限までに削ぎ落とされ、減速させたロックミュージックの境界線に潜む、拡張された歌だと言える。これまでにフェネズ、灰野敬二、ジョン・ゾーン、メルツバウ、ジム・オルーク、鈴木昭男、エヴァン・パーカーなど多くのアーティストとコラボレーションをしている。2001年より欧州、北米、日本を中心にツアーを続け、大きなフェスティバルで演奏をしている。数多くの作品をリリースし、2014年のアルバム「Quixotism」はThe Wireのトップ50、PitchforkのExperimental Artist Of The Yearに選ばれた。



人間の持つスケールを変容させる (タイトルは未定)

展示 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：札幌市立大学 芸術の森キャンパス スカイウェイ

時間：9:45－17:00 | 非公開日：あり(日程は未定)

協力：札幌市立大学 機材協賛：FOSTEX COMPANY

音波や磁場、電気など、展示する場所に存在する要素や現象を素材としてとり込んだインスタレーション作品をつくりあげる毛利悠子は、SIAF2014に続く二度目のSIAF参加となるアーティストです。前回の会場となった清草亭での地中をテーマにした静謐なインスタレーションとは対照的に、今回は北海道の広大な大地に目を向け、人間の知覚のスケールを揺さぶるようなダイナミックな空間構成に挑戦します。

北海道の旅からインスピレーションを得たという本作は、建築家・清家清氏が設計した札幌市立大学の山を貫く空中廊下「スカイウェイ」が会場となります。その長大な空間特性から生まれる音や光の現象を通して、人間が持つスケールを変容させることを試みます。芸術の森に隣接する素晴らしい景観とインスタレーションが空間で共鳴し合うなかで、移動すること、見ること、聴くことが一体化した豊かな時間をつくりだします。

毛利 悠子 〈日本〉 **MOHRI YUKO**

http://mohrizm.net



撮影：前田 直子

1980年神奈川県生まれ。東京都在住。日用品と機械とを再構成した立体物を環境に寄り添わせ、磁力や重力、光など、目に見えない力を感じ取るインスタレーション作品を制作する。2015年にアジアン・カルチュラル・カウンシルのグランティとして渡米。2016年渡英、ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム、カムデン・アーツ・センターにて滞在制作。近年の主な展覧会に、コーチ＝ムジリス・ビエンナーレ2016(インド)、ヨコハマトリエンナーレ2014など国内外多数。日産アートアワード、神奈川文化賞未来賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。



3

札幌市立大学
芸術の森キャンパス
SAPPORO CITY UNIVERSITY
GEIJUTSU-NO-MORI CAMPUS

札幌市南区芸術の森1丁目

2006年にデザイン学部と看護学部を有する大学として創設。「人間重視と地域社会への貢献」という教育・研究の理念のもと、少人数制による専門性の高い教育を行っています。緑豊かな自然に包まれる芸術の森キャンパスは、デザイン学部・研究科の拠点となっており、校舎は札幌市立大学の前身である札幌市立高専初代校長で、日本を代表する建築家の一人である清家清による建築作品です。清家の計画によるキャンパスは、起伏のある敷地の造成を最小限とし、建築を周囲の緑と併存させるもので、校舎のありようは、学生にとって実物大の教科書・教材です。



レトロスペース坂会館 撮影：藤倉 翼



画：阿部鉄男



三松正夫「11次大噴火(1944年)」三松正夫記念館提供



赤平炭鉱坑内模式図(部分)：赤平市教育委員会提供

札幌と北海道の三至宝 アートはこれを超えられるか！

企画：上遠野 敏

すすきの会場（札幌の三至宝）

展示 **¥** 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：北専プラザ佐野ビル 地下1階 | 時間：13:00－20:00 | 休館日：月曜 ※8/7(月)、9/18(月・祝)は開館

レトロスペース坂会館別館

館長：坂 一敬 写真：藤倉 翼

1994年6月に開館した「レトロスペース坂会館(本館)」は、館長・坂一敬が私財を投じて、失われていく昭和の身近に使っていた雑貨を数万点収集した私設博物館。隅々まで磨き上げられ精緻に陳列されたコレクションには、まるで館長の命が吹き込まれたように、人と物との関係が濃密に宿っています。文化として清濁分け隔てなく同一の愛を注ぎ、慎ましくも深い洞察力の結晶が並ぶアートを超える札幌の至宝です。北専プラザ佐野ビルには会期中限定で「別館」をオープンします。本館でも紹介されたことがない秘蔵コレクションを、元パーカウンターであった独特の空間に坂館長自らが展示。併せて札幌の写真家・藤倉翼が撮影した本館の様子と館長の写真が展示されます。

※別館と併せて本館もご覧ください。



レトロスペース坂会館(本館)
札幌市西区二十四軒3条7丁目3-22
館長：坂 一敬 副館長：中本 尚子



4

大漁居酒屋てっちゃん
札幌市中央区南3条西4丁目 カミヤビル7階
【店内ツアー】 毎日15:00－17:00(水・日を除く)
※受付方法はSIAF公式サイトをご確認ください。



写真：都築 響一

大漁居酒屋てっちゃんサテライト

画：阿部 鉄男 写真：藤倉 翼 協力：UR都市機構、小熊商店

「てっちゃん」こと阿部鉄男さんが、20年の歳月をかけて埋め尽くした店内のコラージュ空間は圧巻。トイレの水槽コラージュ&アッサンブラージュも必見で、世界中を探しても唯一無二な空間です。「てっちゃん」いわく、「レコードジャケット貼りからはじまり、正月三ヶ日に店に泊まり込み、貼り込んで起点を形成。その後、お客さんとの交流も加わり次第にアイテムが増えて現在の状況となりました。」すすきの会場では写真家・藤倉翼が撮影した大漁居酒屋てっちゃんの写真と、「てっちゃん」が空いた時間に制作した、家族の肖像といえる油絵や素描を公開。描く喜びがほとばしる絵画。技術より大事なものがそこにあります。

北海道秘宝館「春子」

協力：都築 響一

北海道秘宝館(札幌市南区定山溪)は、2010年に閉館となりましたが、そこに展示されていた蠅人形の造形力は他に類を見ないほど素晴らしいものでした。閉館後、この蠅人形は館内が荒らされたため損傷していましたが、東京の個人が譲り受けて丁寧に修復を施しました。持ち主は蠅人形を「春子」と名付け秘宝は至宝へと蘇りました。あの名作を札幌の至宝として紹介します。

札幌市資料館会場（北海道の三至宝）

展示 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：札幌市資料館 | 時間：10:00－18:00 | 休館日：月曜、9/19(火) ※9/18(月・祝)は開館

地球の声を聞いた男・三松正夫の昭和火山火山画

協力：三松 三朗(三松正夫記念館館長)

北海道有珠郡壮瞥町の元郵便局長三松正夫は、戦時中に世界で唯一、火山の生成を記録した人物です。東京美術学校(現東京藝術大学)を目指していたこともあり、日本画として和紙や絹本にリアルに描かれたその火山の姿には目を見張るものがあります。いずれも珠玉の逸品といえるでしょう。また、昭和火山の標高を定点観測した「ミマツダイヤグラム」は、世界的に高い評価を受けています。昭和火山は三松が私財を投じて購入した個人の所有物で、火山そのものが世界に誇れる博物館の資料となっています。札幌市資料館では火山画(一部レプリカ)と資料を公開展示し、その魅力を伝えます。

北海道の木彫り熊～山里稔コレクションを中心に

協力：山里 稔、清水 敏、潮野 一郎、渡辺 拓治、上田 悟、曾山 輝義

木彫り熊は、北海道を代表するお土産という時代もありましたが、その後、近年まで評価されない時期が続きました。それは、安価で大量に作れる機械彫りの熊が登場したことが一つの要因であり、その人気は衰退してしまいました。そこで改めて、手彫りによる熊を見てみると、そこには命が宿っているように感じられます。彫り師たちが試行錯誤を重ね造形性を高めた、世界に発信すべき芸術作品といえるのではないのでしょうか。そのお土産熊を俯瞰するため、造形作家・山里稔の木彫り熊コレクションと道内の名作熊が一堂に会します。

赤平住友の炭鉱遺産：坑内模式図 〔限定公開〕8月6日(日)－8月17日(木)

協力：赤平市、赤平市教育委員会、吉田 勲、三上 秀雄、赤平コミュニティガイドクラブ「TANtan」

2016年に住石マテリアルズ株式会社から赤平市に旧住友赤平炭鉱の立坑、坑口浴場などが一括譲渡されました。今回公開となる坑内模式図はこれまで一般に公開されたことはなく、SIAF2017が初めての機会となります。この模式図は、全長200キロメートルの坑内を図面に収めた炭鉱の羅針盤といえるもので、坑内測量職員がどのように作業を進めていくのかをこの模式図によって判断するという大変重要な役割を担っていました。その実務的な機能がなくなった今、絵画としてこの模式図を見てみると、北海道の絵画史の書き換えを余儀なくされるほどの逸品に見えてきます。

特別プログラム

北海道の三至宝：アートはこれを超えられるか！

8月11日(祝・金)
会場：札幌市資料館 研修室
時間：13:30－17:00
ゲスト：三松 三朗、山里 稔、吉田 勲 ほか
モデレーター：上遠野 敏

札幌市資料館で公開する三至宝にまつわるそれぞれの専門家が集結。熱いトークが繰り広げられます。

上遠野 敏 〈日本〉
KATONO SATOSHI

1955年、福島県生まれ。札幌市在住。美術家。東京芸術大学、大学院修了。札幌市立大学、大学院で教授。2004年から空知産炭地域の炭鉱遺産を活用したアートプロジェクト「奔別アートプロジェクト2014」などのアートディレクター兼作家として地域活性化に取り組んでいる。「ネ・申・イ・ム・光景」シリーズとして日本全国の神仏の現れを撮影した写真作品にも取り組んでいる。主な展覧会に、「北日本の5人作家達」(ハンプルク総合芸術館 カンプナーゲル、ドイツ、2001年)、「Interaction」相互作用(エルンスト・バーラッハ美術館、ドイツ、2005年)、「夕張清水沢アートプロジェクト」(旧北炭清水沢火力発電所跡、2011年)、「Distant Observations Fukushima in Berlin」(ドイツ・クンストラウム・クロイツベルク・ベタニエン[ドイツ]、2014年)など。

「Intention and substance」

展示 **¥** **8月6日(日)－10月1日(日)**

会場：北専プラザ佐野ビル 5階 | 時間：13:00－20:00 | 休館日：月曜 ※8/7(月)、9/18(月・祝)は開館

「私たち人類は、産業革命以降の大量生産、大量消費による方向性から多くの利便性、物質的豊かさを得た反面、自然の破壊や大量廃棄などからの環境やエネルギーの問題、それらに付随する金融システムからの経済格差など劇的ともいえる速さで進んできた。この地球という限られた資源を搾取し続ければ、いずれ人類はすべてを失ってしまう。そろそろ一度立ち止まり、大量生産、大量消費の社会システムから、あらゆる資源が循環するシステムへと、さらに人間の思考まで循環させるような時代にシフトしなければならない」と端は語ります。

昨年のあいちトリエンナーレ2016に出品した端の作品は、上記した現代に起きている問題を、象徴的に地球上すべての動植物に欠かせない物質「水」を使い、物理的な循環を示した装置でした。水、配水ポンプ、ハロゲン投光器によって水を液体から気体、そして気体から液体へと循環させ美しい現象を表現すると共に、ハロゲンランプが大量に消費する電力が現代社会システムの矛盾と脆さを象徴しています。今回の発表会場となる日本三大歓楽街すすきのは、人間のあらゆる欲望が渦巻く街であり、人の欲があるが故に札幌近代化の礎となったエリアです。端はこのすすきので循環と変化をコンセプトに平面、立体、インスタレーションを発表予定です。

関連イベント

「SIAF2017 オフィシャルバー(OYOYO まち×アートセンターさっぽろ)」(P34参照)にて、ブランドローイングなどの発表を予定。あいちトリエンナーレ2016芸術監督・港千尋氏を招いてのトークなども開催します。

端 聡 〈日本〉 HATA SATOSHI

<http://cai-net.jp/aboutus/hata-satoshi/>



1960年北海道岩見沢市生まれ。札幌市在住。札幌を拠点に活動する美術家。1995年ドイツ学術交流会 DAAD の助成によりドイツに滞在して以降、国内外で多数の個展、グループ展で発表。SIAF2014では地域ディレクターとして企画に加わる。主な展覧会として、「ブダペスト国際彫刻絵画ビエンナーレ'96」(Vigado Gallery ほか3会場、ハンガリー、1996年)、「VOCA展'96－現代美術の展望・新しい平面の作家達－」(上野の森美術館、1996年)、「Anstiftung zu einer neuen Wahrnehmung」(プレーメンヴェーザーベルグ現代美術館、ドイツ、2001年)、「グローバル・プレイヤーズ－日本とドイツの現代アーティスト」(Ludwig Forum 美術館、ドイツ、2006年)、「鏡面－中日現代美術交流展－」(Renke Arts Center、中国、2012年)、「GNG HOKKAIDO 2014 光州・北海道特別交流展」(光州国立博物館、韓国、2014年)、あいちトリエンナーレ2016など。2004年、札幌文化奨励賞を受賞。2012年、北海道文化奨励賞を受賞。



〈液体は熱エネルギーにより気体となり、冷えて液体に戻る。そうあるべきだ。2016〉あいちトリエンナーレ2016での展示風景



北専プラザ佐野ビル
HOKUSEN PLAZA SANO BLDG

札幌市中央区南5条西3丁目2 地下1・5階

昭和41年に「北専会館」として竣工した、佐野企業株式会社と株式会社ほくせんが共同所有するビル。ほくせんの業務拡大による事務スペースの減少などから、初代理事長である佐野富蔵氏の私邸跡地を利用して建築されました。飲食店、事務所、結婚式場、宴会場などに利用されていましたが、現在は、飲食店がメインのビルとなっています。

DOMMUNE UNIVERSITY OF THE ARTS THE 100 JAPANESE CONTEMPORARY ARTISTS season 5 (略称:DOMMUNE SAPPORO!)



DOMMUNE は2010年3月に開局し、同時視聴者数約10,000人/回、トータル視聴者数5,000万人を超える、トーク&DJライブを全世界に発信し続けるインターネットストリーミング放送局です。首謀者である宇川直宏は、DOMMUNE スタジオで日々産み出される番組の撮影行為、配信行為、記録行為を、自らの“現在美術”作品と位置づけています。

「THE 100 JAPANESE CONTEMPORARY ARTISTS」は2014年に始動した DOMMUNE のプロジェクトで、現代日本を代表するアーティスト100人の個人史をひもとく、自叙伝的インタビュー番組です。SIAF2017では、このインタビュー番組シリーズの season 5を2会場で開催することが決定しました。大通西5丁目にあるギャラリー「CAI02」にサテライトスタジオ＝DOMMUNE SAPPORO!を開局し、番組配信と展示を行います。すすきのにある「北専プラザ佐野ビル」地下1階では、かつてキャバクラだった全面ピンク色の空間を生かした、ここでしか見ることのできない異色の展示が展開されます。

今後、東京と札幌で season 5を彩るアーティストのインタビュー配信・収録が進められ、これらの映像が、出演者の作品とともにSIAF2017において、展覧会として発表・上映されます。

すすきの会場：北専プラザ佐野ビル 地下1階

展示 **¥** **篠原 有司男、大友 良英、山川 冬樹、中ザワ ヒデキ、斎藤 秀三郎 ほか**

8月6日(日)－10月1日(日) 時間：13:00－20:00 | 休館日：月曜 ※8/7(月)、9/18(月・祝)は開館

大通会場：CAI02

展示 **¥** **札幌ループライン、さわ ひらぎ**

8月6日(日)－10月1日(日) 時間：11:00－18:00 | 休館日：月曜 ※8/7(月)、9/18(月・祝)は開館

配信

8月5日(土)クワクポリョウタ(予定)、8月6日(日)さわ ひらぎ(予定)、8月18日(金)大友 良英、8月19日(土)中ザワ ヒデキ、9月16日(土)山川 冬樹

会場：CAI02特設スタジオ ほか | 時間：19:00－23:00 (予定) | 料金：1,500円 (予定)
<http://dommune.com>

2017年3月～会期終了までの間、東京の DOMMUNE スタジオ及び、札幌のサテライトスタジオ DOMMUNE SAPPORO!にて8回程度の公開収録・配信を予定しています。出演者及び開催日時は、公式ウェブサイトや SNS で随時発表されます。

宇川 直宏 〈日本〉
UKAWA NAOHIRO



1968年香川県生まれ。映像作家/グラフィックデザイナー/VJ/文筆家/京都造形芸術大学教授、そして“現在美術家”。多岐に渡る活動を行う全方位的アーティスト。既成のファインアートと大衆文化の枠組みを抹消し、自由な表現活動を行っている。ライブストリーミングスタジオ兼チャンネル「DOMMUNE」は、2010年3月の開局と同時に記録的なビューアー数をたたき出し、国内外で話題を呼び続ける。2016年にはアルスエレクトロニカにステージ幅500メートルのサテライトスタジオを開設し、現地オーストリアからの配信が話題となった。文化庁メディア芸術祭審査委員(2013～2015年)。アルスエレクトロニカサウンドアート部門審査委員(2015年)。高松メディアアート祭(2015年)ではゼネラルディレクター/キュレーター/審査委員長長の三役を務める。



CAI02

札幌市中央区大通西5丁目8 昭和ビル地下2階

飲食店が並ぶビルの地下2階にあるギャラリー。現代アートを中心とした企画展示を行うとともに、交流の場としてカフェも併設しています。新たな創造を生むクリエイターの育成とサポートを目的に、国内外のアーティストの展覧会や、イベント、レクチャーなどを実施。新しい芸術文化を発信しています。



藻岩山での実験風景

藻岩山の山頂と、すすきのの地下。 札幌を照らす2つの作品

展示 ￥ 8月6日(日)－10月1日(日)

藻岩山会場：藻岩山山頂付近

時間：未定(藻岩山展望台10:30～22:00) | 休館日：無休

※屋外作品のため、天候によって展示を中止する場合があります。

すすきの会場：AGS 6・3ビル

時間：13:00－20:00 | 休館日：月曜

※8/7(月)、9/18(月・祝)は開館

2016年春から複数回にわたり札幌を訪れてきた堀尾寛太は今回、2作品を発表します。

一つめの作品は、札幌の街の西側に広がる、藻岩山の山頂付近に設置されます。麓まで住宅街が迫り、そこから急峻な斜面が頂上まで続く、高さ531mの藻岩山の山頂に登ると、扇状地の上に形成された都市・札幌と、石狩湾や日高山脈までも一望できます。堀尾は、街にそびえるビルの窓ガラスの反射や、遠くに輝く灯台の光が山頂から見えることに興味を抱き、藻岩山に小さな発光体を設置します。こちらからあちらが見えるという事は、あちらからもこちらが見えるのではないかとその仮説に基づき、札幌という街の地形を利用した、ダイナミックでささやかな実験を試みます。

二つめの作品は、かつてユニフォームの製造が行われていた、すすきのにあるビルの中で展開されます。日本有数の歓楽街としてネオンが輝くすすきの。そこにひっそりと建つ、今はもう使われていない真っ暗なビルの地下で、作家によって生み出されたひとつの運動体が光を放ちます。



AGS 6・3ビル

AGS 6・3 BLDG

札幌市中央区南6条西3丁目13

札幌市内を拠点とする会社の社屋として1974年竣工。レトロな雰囲気漂う館内は昭和を感じさせます。近年は空きビルとなっていました。2017年に「AGS 6・3ビル」に改称。SIAF2017の会場としての役目を最後に解体予定です。

堀尾 寛太〈日本〉 HORIO KANTA

<http://kanta.but.jp>



写真：小山田 邦哉 提供：国際芸術センター青森 [ACAC]

1978年広島県生まれ。東京都在住。アーティスト / エンジニア。九州芸術工科大学(現・九州大学芸術工学部)にて音響学とコンピュータ音楽を学ぶ。マシンと音の自然な関係性を追求し、自作の電子回路と機構を組み合わせた、音、光、運動、位置などさまざまなエネルギーを相互に変換し、物の自律した動きを作り出す装置によるライブ パフォーマンスやインスタレーションを国内外で発表。また、エンジニアとして展示やイベント、プロトタイピングのための電子デバイスなどの開発も手掛けるほか、インターフェイスと振動を統合した電子楽器のプロジェクトも開始している。

《わからないものたち》

展示 ￥ 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：金市館ビル | 時間：13:00－20:00 | 休館日：火曜 りんご | 時間：未定 | 休館日：未定

梅田哲也は、2016年より札幌に滞在して行った活動を通して出会った場所や人々と関わりながら、まちなかの金市館ビルと、中の島エリアの旧りんご倉庫で軟石づくりの蔵「りんご」、2つの会場で新作のインスタレーションを発表します。

梅田の作品は、まず、会場となる周囲を観察し、ゼロベースで環境をとらえ直すことからはじまり、その場所できちんと成立しない体験として生み出されます。これまで、美術館やギャラリーのほか、商店街やデパート、駅などのパブリックスペース、廃墟、川や湖など屋内外のあらゆる場所でサイトスペシフィックな作品を発表してきました。廃材や身近な日用品を素材としたオブジェは、シンプルな構造でありながらも予測できない運動で、目に見えない状況を音や光のシンプルな現象に変換したり、空間をダイナミックに変容したりしていきます。また、展示には人の動作を誘導するさまざまな仕掛けが施されており、鑑賞者と作品との干渉による偶然的な出来事をも巻き込んで、作り手にも予測できない「中心のない世界」が浮かび上がります。

梅田 哲也〈日本〉 UMEDA TETSUYA

<http://siranami.com>



撮影：島崎 ろうでいー

日用品や廃材といった身近なものを素材としたインスタレーション、都市空間や自然のなかでのサイトスペシフィックな作品を手掛ける。近年の展覧会に「Double Vision: Contemporary Art from Japan」(モスクワ市近代美術館 / ハイファ美術館、イスラエル、2012年)、「ソリエリュミエール、そして叡智」(金沢21世紀美術館、2012～13年)、「歴史する! Doing history!」(福岡市美術館、2016年)。個展では「SCIENCE DE LA SUPERSTITION」(Instants Chavires、モントルイユ、2015年)、「See, Look at Observed what Watching is」(Portland Institute for Contemporary Art、ポートランド、2016年)など。劇場の機能にフォーカスした舞台作品や、中心点をもたない合唱のプロジェクトなど現地の人を巻き込んだパフォーマンス作品を手がけ、パフォーマンス・アーツや音楽のフェスティバルにも参加。昨年末は大阪で船のクルーズツアー「7つの船」を発表。



金市館ビル

KINICHIKAN BLDG

札幌市中央区南2条西2丁目1(狸小路2丁目)

札幌の中心部大通地区にあり、東西に延びる「狸小路商店街」と南北に延びる「二番街商店街」に囲まれたビル。1970年の開業以来、百貨店やスーパーなどとして、昔から広く札幌市民に親しまれてきました。SIAF2017では、このうちの1フロアを展示会場として使用します。



りんご

RINGO

札幌市豊平区中の島1条3丁目8-19



At the Moment of Being Heard, サツロ・フンギョウ、2013
撮影：Olle Hamrick

狸小路TV

展示 イベント **8月6日(日)－10月1日(日)**

会場：札幌市中央区南2・3条西1～7丁目(狸小路商店街) | 時間：各店舗による | 休館日：各店舗による

1953年にテレビ放送が開始されてから現在までに数多くの作品(番組)がテレビという媒体を通してつくられてきました。その中でも第二期創成期といえる1960～70年代の作品では、テレビ表現における創造や特性の原点を発見することができます。「狸小路TV」と題した本企画は上映、トークイベント、展示、番組スタジオを大通公園の南側に位置する狸小路商店街に展開し、この時代のテレビ表現と初期テレビの特性であった生中継を通じて、現存する多様な表現に対して新しい視点を発見・共有しようとするものです。

本展では日本初の独立系テレビ番組制作プロダクションであるテレビマンユニオン創始者の一人、今野勉作品を中心とした上映や、札幌の地方テレビ局主導でつくられた優れた作品の数々を上映するイベントを開催します。また、狸小路商店街では複数の店舗にテレビを設置し、SIAF2017の各会場からの生中継も放映します。インフォメーションセンターも兼ねる狸小路スタジオ(大通すわろうテラス)では、札幌の多彩なジャンルのクリエイター達が番組ディレクターとなり、参加者とともに番組を企画し、会期全体を通してさまざまな番組を制作・発信します。

上映&トーク

「**根源的なTV表現を再発見する～60年代・70年代の今野勉のTV表現から、創造とは何かを問い直す～**」

8月20日(日) 会場：札幌プラザ2・5(札幌市中央区南2条西5丁目[狸小路5丁目]) | 時間：未定

上映作品：『土曜と月曜の間』(1964年)、『七人の刑事～ふたりだけの銀座』(1967年)、
『遠くへ行きたい～伊丹十三の天が近い村』(1973年)、『天皇の世紀最終回(絶筆)』(1974年)
トークゲスト：今野 勉、松井 茂

上映&トーク

「**TV映像から再発見する〈札幌〉～ローカリズムと創造の原点を探る～**」

9月予定 会場：札幌プラザ2・5(札幌市中央区南2条西5丁目[狸小路5丁目]) | 時間：未定

上映作品：『懐かしい昭和のわんぱく時代』(2008年)から抜粋上映、『風船のあがる時』(1972年)、
『聖夜』(1973年)、『バースディ・カード』(1977年)

トークゲスト：小檜山 博、長沼 修、是枝 裕和



「風船のあがる時」(1972年)より



「聖夜」(1973年)より

狸小路スタジオ **8月6日(日)－10月1日(日)** 時間：未定 | 会場：大通すわろうテラス

参加クリエイター：加賀城 匡貴、木原 くみこ、中田 美知子、西野 功泰、早川 渉、福津 京子 ほか

大通すわろうテラス ODORI SUWARO TERRACE

札幌市中央区南2条西4丁目(札幌ナナイロ前)
時間：11:00～19:00 | 休館日：無休



「人の交流と新たな賑わいづくり」をテーマにした多目的施設。デッキブースと店舗ブースを備え、地域の魅力を伝える情報発信や、イベントとの連携を積極的に行い「地域の創出」を行っています。ここでは「狸小路TV」の配信を行うほか、配信以外の時間帯は、来場者へSIAF2017の各種情報提供や、SIAF公式グッズなどを販売するインフォメーションセンターとして、狸小路やすすきのを中心としたまちなかエリアの来場者を出迎えます。

狸小路商店街 TANUKIKOJI SHOPPING ARCADE

札幌市中央区南2・3条西
1～7丁目



街の中央を横断する大通公園の南側に位置し、東西に延びる約900メートルのアーケードに、約200軒の店舗を有する商店街。地元住民の買い物や、海外観光客の観光・お土産購入スポットとして賑わっています。

市電プロジェクト～都市と市電～

8月6日(日)－10月1日(日) 会場：札幌市電 | 時間：各企画に準ずる

札幌のまちなかを走る市電は、2015年、切り離されていた約400m(「西4丁目」と「すすきの」停留場間)の路線がつながり、ループ化が実現しました。これは「都市と自然」というテーマを掲げた初回の芸術祭が開催された翌年のことでした。このループ化された市電を舞台にしたプロジェクトが「市電プロジェクト～都市と市電～」です。今日の札幌に欠かせない市電。そして、市電のループ路線が囲むエリアである旧山鼻村は、早くから開拓が進められた歴史を持ちます。本プロジェクトではこのエリアの現在の姿だけでなく、これまでの歴史や営みにも注目し、「市電(路面電車)」に新たな役割・表情を持たせることで、エリア特有の魅力や可能性を引き出すような仕掛けを、アーティストと市民が共同で考えていきます。そのプロセスで、さまざまな実験や取り組みを実践しますので、その様子を逐次公開し、成果を共有していきます。また、このプロジェクトで見出した情報やプロセスをアーカイブする予定です。未来の札幌の創造活動につながるプロジェクトが始動します。

ライブ ￥ ライブ・ノイズ電車 開催日未定(複数回実施) | 時間：各回19:00出発予定(約60分)

2012年のフェスティバルFUKUSHIMA!を原点とするノイズ電車が、市電を会場に展開します。複数のミュージシャンが市電に乗り込み、ノイズミュージックを演奏。観客は、鳴りやまない音の渦に飲まれ、ライブ空間へと変容した市電によって夜の札幌を周回します。

公演 ￥ 札幌市電×指輪ホテル 9月23日(土・祝)・24日(日) | 時間：未定(1日2回予定)

アーティスト「指輪ホテル(芸術監督:羊屋白玉)」が、市電やその周辺地域を舞台に新作となる演劇を市民とともに制作し、公演します。今回は、市電周辺エリアならではの風景、人、物、出来事に注目し、時には市電の車内で、時には車窓からの風景の中で、それらの要素を指輪ホテル独自の観点で演出に盛り込んだ演劇が創作されます。制作にあたっては、さまざまな形で市民を巻き込みます。パフォーマンスの参加はもちろんのこと、美術や衣装の作成、映像撮影として作品を発信、アーカイブ化する重要な役割にも市民が参画。創作される様子を公開しながら、札幌の皆さんと一緒に作りあげる作品を目指して展開します。

プロジェクト 市電放送局 JOSIAF 開催期間中隔週で放送予定 | 放送時間：未定 | 定員：20名

市電そのものをスタジオにした放送局がこの夏、開局します。この放送局では、市電の成り立ちや市電周辺の歴史、習慣、営みの特徴を要素に、さまざまなゲストを迎え、トーク番組から音の実験まで、市電の仕組みやその隠された機能を生かして番組が制作される予定です。放送内容は、すべて電車内から配信、収録されますので、市電がラジオのスタジオとなり、電車に乗りながら公開収録を楽しんでいただけます。ミニFMやインターネットを介した媒体を利用するなど、広く配信も予定しています。

プロジェクト ラッピング電車 SIAF号

会期中毎日運行予定 | 運行時間：未定 | 講師：佐藤 直樹(SIAFバンドメンバー) 共催：札幌市中央区

市電プロジェクトとSIAFデザインプロジェクトとの連携企画として、札幌市中央区に住む小学5～6年生と共にワークショップを通じてラッピング電車SIAF号のデザイン(設計図)を考案します。その図案をもとにラッピングされたSIAF号は、会期中、毎日どこかの時間に出勤し、通常運行のみならず市電プロジェクトの各コンテンツの会場としても活用されます。



「札幌市電×指輪ホテル」のイメージ 撮影：詫間 のり子

指輪ホテル〈日本〉

YUBIWA HOTEL

http://www.yubiwahotel.com



撮影：野村 依紀子

羊屋白玉(北海道出身)が、創作と演出、ときどき俳優をつとめる「作品の連続体」。旅をしながら演劇作品の上演を行っている。劇場公演の他、国内外の芸術祭に招聘され、公演会場であるその土地に根づいた物語や歴史をもとに、その場所ならではの野外作品を手がけている。主な作品に、2001年同時多発テロの最中、ニューヨークと東京をブロードバンドで繋ぎ同時上演した「Long Distance Love」をはじめ、近年では、瀬戸内国際芸術祭2013では海で、いちらはアート×ミック ス2014では鉄道で、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015では雪崩よけのスノーシェッドで、瀬戸内国際芸術祭2016では400年の歴史を持つ庭園で上演した。



札幌市電(路面電車) SAPPORO STREETCAR (SHIDEN)

1918年に開通し、1927年に市営化されました。最盛期には多数の路線を有していましたが、道路事情の変化や地下鉄の開通で次第に縮小、1974年5月には現在の1路線を残すだけになりました。一時は全面廃止も考えられましたが、市民の要望などもあり、まちづくりに活用するために存続することになりました。2015年のループ化(環状化)により、利便性も向上し、現在も「市民の足」として親しまれています。



《うろ・うろ・うろ》

展示 ￥ 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：北海道教育大学 アーツ&スポーツ文化複合施設 HUG | 時間：12:30-19:30 | 休館日：火曜
協力：北海道教育大学、キャンノン株式会社

心象風景や記憶の中にある感覚といった実態のない領域を表現してきたさわひらきが、本展では現実に起こったことの記録をもとにした新作の映像インスタレーションを発表します。
本作は、今年の1～2月にかけて、梅田哲也(P23)と共に、モエレ沼やタ張市のシュエパロ湖で行った光の実験「フィールドアクション」にて撮影されました。氷点下のなか、氷面に積もった雪を掻き、円を描き、氷に穴を開け、水中に照明を沈め、その光源を上下することで拡散の範囲を変化させるなど、梅田の謎に包まれた非合理的な行為によって、この世のものとは思えないような幻想的な光景が立ち現れます。不気味に発光する穴、その周りで行われる営みは、数万年前に行われていたかもしれない祭祀のようでもあり、偶然この地に降り立った未来人が宇宙と交信しているかのようでもあります。これら一連の出来事がさわの能動的(創造的)な誤読によって再構築され、虚と実が交錯する詩的な映像で描き出されます。

さわ ひらき(日本) SAWA HIRAKI



1977年石川県生まれ。心象風景や記憶の中にある感覚といった実体のない領域を、映像・立体・平面などを巧みに操り構成したビデオインスタレーションで表現する。現実にはありえない光景を描きながら、どこか親しみを感じさせる世界を展示空間に生み出し、見る人の想像力に働きかけるような作品を発表し続けている。主な個展に「Under the Box, Beyond the Bounds」(東京オペラシティ アートギャラリー、2014年)、「Whirl」(神奈川県民ホール、2012年)、グループ展にリヨン・ビエンナーレ(2013年)、シドニー・ビエンナーレ(2010年)、アジア・パシフィック・トリエンナーレ(2009年)など。



北海道教育大学
アーツ&スポーツ文化複合施設
HUG

HUE UNIVERSAL GALLERY
札幌市中央区北1条東2丁目4

北海道教育大学が、北海道の美術、音楽、スポーツ教育のフラッグシップとして培ってきた成果を発信、社会に提案していく施設として2015年にオープン。同学の芸術・スポーツ文化教育と研究についての情報発信のプラットフォームとして、芸術・スポーツ系の大学院授業を実施するほか、美術展や音楽会、パブリック・ビューイングや映画上映、各種の講義やワークショップ、イベントなどを通して、最新の研究成果を発信しています。地域の方々との自由な連携や協力を通し、新たなライフスタイル、教育、文化ビジネスの創造を行っています。

中崎透 × 札幌 × スキー 「シュプールを追いかけて」

展示 8月6日(日)－10月1日(日) 会場：札幌大通地下ギャラリー 500m美術館 | 時間：7:30-22:00 | 休館日：無休

この展覧会は、アーティスト中崎透を中心に、専用ボランティアチーム「SIAF500メーターズ」のサポートとともに、リサーチ、ワークショップ、ミーティングなどを重ねてつくり上げられます。
中崎は、冬や雪を楽しむ北国の生活、都市の発展とオリンピックとの関係、札幌におけるスキーの歴史の一側面に着目しました。展覧会では、スキーや雪山、1972年の札幌オリンピック冬季大会にまつわる展示物、リサーチにより集めたスキー板をはじめとした冬の道具を、直線の展示空間を生かし、年代を追って並べつつ、それにまつわる関係者へのインタビューを掲示することで、その道具や作品の年代にあった生活や人、時代を想起させます。生活する上でやっかいな雪と共存し、冬と常に向き合いながら成長をしてきた札幌という都市が持つ人間の工夫や遊び心の軌跡を、雪景色に刻まれたシュプールをたどるように体験できる空間を創出します。

中崎 透(日本) NAKAZAKI TOHRU



撮影：永峰 拓也

1976年茨城生まれ。美術家。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。展覧会多数。2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より「遊戯室(中崎透+遠藤水城)」を設立し、運営に携わる。2011年より「プロジェクトFUKUSHIMA!」に参加、主に美術部門のディレクションを担当。



札幌大通地下ギャラリー
500m美術館

SAPPORO ODORI 500-M
UNDERGROUND WALKWAY
GALLERY

札幌市中央区大通西1丁目～大通東2丁目

地下鉄大通駅とバスセンター前駅を結ぶ地下コンコースにある、全長500mにわたるギャラリーです。1年を通してさまざまなアート作品が設置され、市民が国内外の多彩な芸術文化に触れる機会を創出しています。



中崎透 × 青森市所蔵作品展「シュプールを追いかけて」の展示風景、2014年 Photo: NISHIKAWA Koji

火ノ刺繍 —『石狩シーツ』の先へ

展示 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：北海道大学総合博物館 | 時間：10:00－17:00、金10:00－21:00 | 休館日：月曜、9/3(日)、9/19(火) ※8/7(月)、9/18(月・祝)は開館

吉増剛造にとって北海道の地は、その長い詩業において、詩人としての危機とも言える状況からの再生の舞台となってきました。ブラジル滞在からの帰国後、「石狩河口 / 坐る」という展覧会を札幌市内のギャラリー、テンポラリースペースで開催し、実際に河口に坐ってひたすら銅板を打った4カ月間が、代表作『石狩シーツ』に結実したのが1994年。さらに月日を経て東日本大震災の年の冬、同スペースでの「石狩河口 / 坐る ふたたび」展の直後に厳寒の河口に坐ってはじまった詩作は、5年の月日を経て長篇詩『怪物君』へと発展していきました。石狩川河口にたたずむ詩人の身体に、ここを入り口として広がっていった札幌の近代化の歪みと、そこからの「再生」の可能性を重ねてみることもできるかもしれません。夕張炭坑の気配、アフナルパル——、詩人にとって北海道の大地は、生と死の界であり、根源的なイメージへと降りるための入り口であると言えます。今回のSIAF2017では、吉増剛造の詩業を貫く『石狩シーツ』のビジョンを振り返るとともに、その先に待つものへと分け入る新作を発表します。

吉増 剛造 〈日本〉
YOSHIMASU GOZO



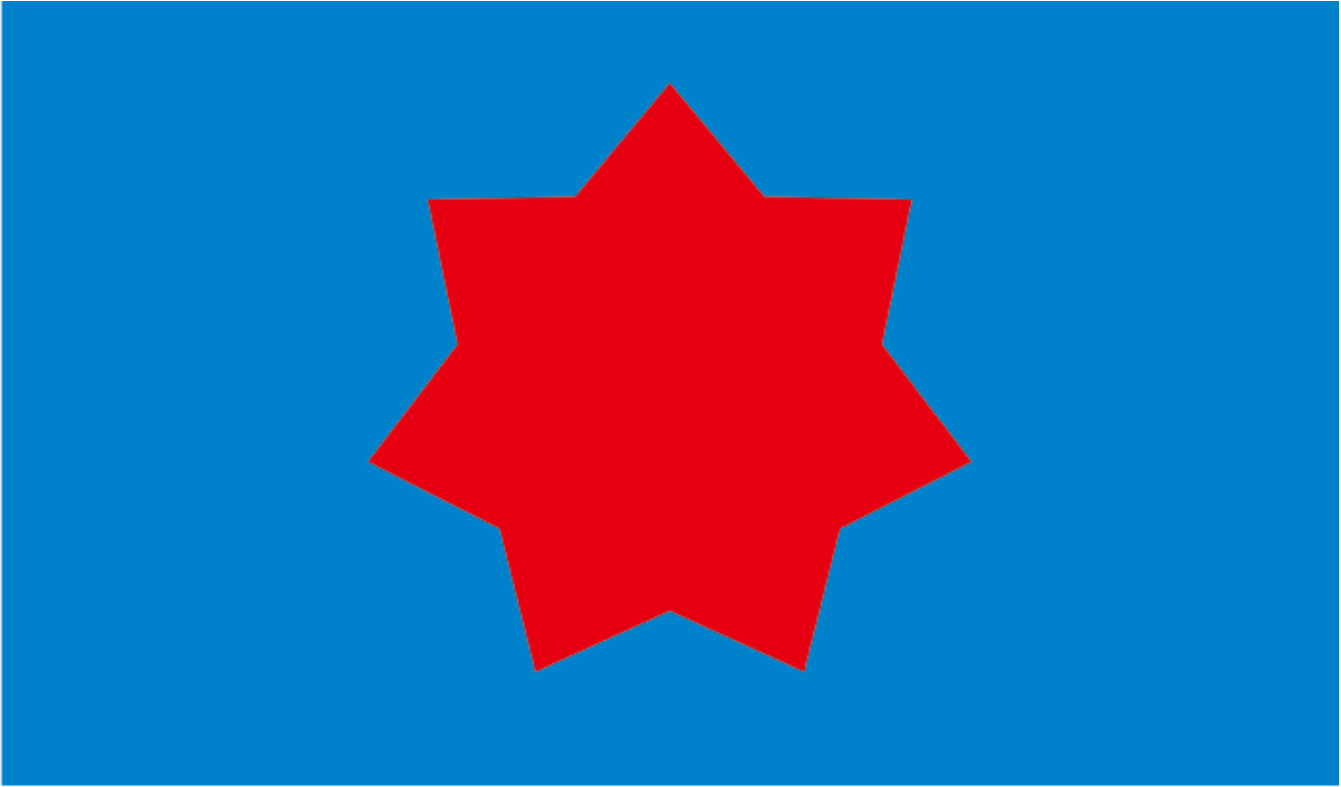
1939年東京都生まれ。1964年に『出発』でデビューして以来、現代詩の最先端を疾走し続けている。主な詩集に『黄金詩篇』(1970年)、『オシリス、石ノ神』(1984年)、『花火の家の入り口で』(1995年)、『「雪の島」あるいは「エミリーの幽霊」』(1998年)、『怪物君』(2016年)など多数。2015年、日本芸術院賞・恩賜賞、日本芸術院会員。2006年から映像作品「gozo Ciné」を発表する。朗読パフォーマンスの先駆者としても知られ、1960年代から現在まで、日本各地およびフランス・イタリア・アメリカ・ブラジル・韓国などで詩の朗読を行っている。2016年、国立近代美術館にて「声ノマ全身詩人、吉増剛造展」開催。



北海道大学総合博物館
THE HOKKAIDO UNIVERSITY
MUSEUM

札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学(北大)が有する貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し、学内外へ情報を発信するために1999年開館。約1万3千点のタイプ(模式)標本を含む、約300万点の学術標本を収蔵し、北大の多様な研究の伝統を今に伝えるとともに、最先端の研究をさまざまな実物資料や映像で展示・紹介しています。また、「ミュージアムマイスター」の育成や「パラタクソノミスト養成講座」など、未来を見据えたユニークな教育活動も行っています。学生や教職員だけでなく市民に親しまれる、開かれた博物館として、多くの「モノ」と「コト」、そして「ヒト」との出会いの場を創出しています。



SAPPORO DESIGN FRONTIER SINCE 1872

札幌デザイン開拓使 サッポロ発のグラフィックデザイン ～栗谷川健一から初音ミクまで～

展示 ￥ 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：JRタワープラニスホール | 時間：平日13:00－19:00、土・日・祝10:00－19:00 | 休館日：無休
企画者：ワビスabi

本展では、「デザインってなんだ?」という問いを、札幌にまつわるデザインで考えます。1872年、北海道の開拓に尽力した黒田清隆がデザインし、採用されなかったとされる幻の開拓使旗エンブレムを起源とし、札幌のデザインの歴史を、グラフィックデザインを中心に展示します。開拓が始まった頃、グラフィックデザインという分野が確立していない時代にもデザインは存在し、生活の中に生きてきました。明治初期の地図や鳥瞰図、昭和初期にグラフィックデザインの先駆けとなった栗谷川健一の観光ポスター、札幌オリンピックで登場した多くのデザイン。そして80年代以降、札幌を拠点とするデザイナーによって生み出されたグラフィックデザインの数々などを紹介します。今や目に触れるほとんどの物がデザインされていることにすら気がつかないほど、「デザイン」は当たり前の存在です。そんな時代だからこそ、「デザインってなんだ?」の問いかけを通じて、デザインをさまざまな角度から感じることができます。

栗谷川 健一 〈日本〉 KURIYAGAWA KENICHI



1911年北海道岩見沢市生まれ、1999年没。独学でグラフィックデザインを学び、1948年、デザイナーとして独立。北海道の観光ポスターやさっぽろ雪まつり、冬季五輪札幌招致ポスターなどを手がけ、国内外で高い評価を得る。1956年、ニューヨーク近代美術館「日本のグラフィック・デザイン展」日本代表としてポスター8点出品。1962年、北海道のデザイン教育の嚆矢となる北海道デザイン研究所(後の北海道造形デザイン専門学校)を創立、1982年、北海道デザイン協議会初代会長に就任、北海道におけるグラフィックデザインのパイオニアとして多大な功績を残す。世界観光ポスターコンクール最優秀賞、札幌市民芸術賞、北海道文化賞、勲五等双光旭日章など受賞多数。札幌市営地下鉄の壁面デザインや、札幌市民会館(現わくわくホリデーホール[札幌市民ホール])の縦帳など、そのデザインは今も札幌市民の生活の中に生きている。



JRタワープラニスホール

JR TOWER PLANIS HALL

札幌市中央区北5条西2丁目 エスタ11階

JR札幌駅は、新千歳空港から直結した札幌への玄関として1日に9万人を超える人が利用しています。SIAF2017の会場に決定したJRタワープラニスホールは、この札幌駅から直結する商業施設エスタにあります。これまでもさまざまな展覧会やイベントを通じて文化発信してきたこのホールでは、作品展示を行い、SIAF2017の最初の窓口として、皆さんを迎えます。

札幌市資料館を拠点としたアートプロジェクト

プロジェクト 8月6日(日)－10月1日(日) 休館日：月曜、9/19(火) ※9/18(月・祝)は開館

SIAF2017のテーマである「芸術祭ってなんだ?」を参加者一人ひとりが考え、試し、共有する場として札幌市資料館を開放します。ワークショップや展示、参加型のプログラムを展開しながら、芸術文化活動の担い手をはじめとする活動団体、アーティスト、研究者、そして市民の交流の場として機能することを目的として活用します。また、一つのプロジェクトとして、SIAFの自主事業や関連事業、連携事業を中心に、会期中を含め、本祭に向けて展開されるさまざまな取り組みから情報を収集し、資料館そのものが「未来の札幌」を発信する媒体となることを目指します。会期中は、インフォメーションやカフェ、ボランティアセンターを併設し、芸術祭全体の拠り所として機能します。

SIAF CAMP SITE PROJECT「裏庭」 会場：札幌市資料館 裏庭 | 時間：未定 | ゲスト：SIAFラボ企画メンバー、タノタイガ ほか

2015年から継続的に活動しているSIAFラボがプロデュースする企画を参加者と共に実践するプロジェクト。裏庭を舞台とした「キャンプ場」を生み出すためにさまざまな課題や障害、制約を乗り越えていくための勉強会やワークショップを重ね、一連の取り組みを公開しながら、「公共(パブリック)とは何か?」を参加するそれぞれが「個人(パーソナル・プライベート)」な視点から考え、アイデアの実現に向けて活動を展開します。



サカナ通信 会場：札幌市資料館 2階 | 時間：10:00－18:00

情報発信基地となるSIAF編集局・放送局「サカナ通信」では、会期中に行われるさまざまなプロジェクトやイベントのタイムリーな情報をSIAFラボ編集局のメンバーやボランティアスタッフが記者となって取材、編集し、定期的に発行する紙媒体を通じて発信します。また、ソーシャルメディア(ユーストリーム放送、フェイスブックやホームページ)やミニFMなど既存のメディアを活用しながら、新たなメディアを生み出していくことにもチャレンジしていきます。この取り組みにより集積された情報で、今後の札幌市内のいろいろな活動に生かされるアーカイブづくりも行っていきます。

アート&リサーチセンター

会場：札幌市資料館 2階 | アート&リサーチセンター館長：小田井真美(さっぽろ天神山アートスタジオAIRディレクター)

2014年に始まったSIAFでは、北海道・札幌の滞在体験から生まれる作品、アートプロジェクトの始まりを期待し、アーティストなどによる北海道・札幌での現地調査活動と制作活動といった創造的な取り組みを積極的に支援しています。2015年度には、リサーチ活動を経てプロジェクトや作品のプランを制作し発表する「アートとリサーチワークショップ」を開催しました。SIAFや同ワークショップの参加アーティスト、アーティスト・イン・レジデンス拠点であるさっぽろ天神山アートスタジオにこれまで滞在したアーティスト、研究者たち、ほかのプロジェクトで招聘されたアーティストなどの、リサーチのプロセスやさまざまなストーリーをドキュメントし、公開して、新しい共有財産を作ります。それは、他の誰かのリサーチ活動や旅のヒントになるかもしれませんし、北海道、札幌のオルタナティブな美術史ともいえるでしょう。会期中に、プロセスやストーリーの掘り起こし作業を兼ねたトーク、パフォーマンスなどのアートプログラム、ガイドツアーを実施し、リサーチと再構築を試みる実験的な取り組みです。



NMAライブ・ビデオ アーカイブ

展示 8月6日(日)－10月1日(日) 会場：札幌市資料館 1階 | 時間：10:30－18:30 (予定)

1983年より札幌を拠点に、世界の先鋭的な音楽を紹介しているNMA(NOW MUSIC ARTS)の活動から、ライブコンサートを撮りためたビデオアーカイブを当時のチラシや情報紙などの資料とともに公開します。NMAを主宰する沼山良明が、34年間にわたり企画したコンサートは、実に180回200グループ余り(6回のフェスティバルを含む)にのぼります。このビデオアーカイブには、1980年代のジョン・ゾーンやクリスチャン・マークレー、1990年札幌初ライブ以降の太友良英やカール・ストーンといった、主に即興音楽シーンをめぐる、世界的にも貴重な記録が多く含まれています。

札幌市資料館の展示会場では、沼山自ら編集したNMAライブのベスト・セレクション映像をご覧いただき、さらに、これまでに行われたさまざまなNMAライブコンサートのビデオを、会場で自由に検索し、閲覧していただけます。



紹介予定アーカイブ例

- ・International NOW MUSIC Festival SAPPORO 第1～6回(1986～1997年)
- ・クリスチャン・マークレー/LEGENDARY TURNTABLEWIZARD(1999年)
- ・太友 良英"ANODE"～世界初演～(2002年)
- ・一楽 儀光/『ドラびでお』北海道ツアー 2006(2006年)
- ・太友 良英/スペシャルビッグバンド in SAPPORO(2014年)
- ・巻上 公一/ヒカシュー「生きてこい沈黙」CD発売記念ライブ(2015年)

テラコヤーツセンター「土砂」

展示 イベント 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：札幌市資料館 2階大通交流ギャラリー | 時間：10:00－18:00

ゲスト：MC MANGO ほか

制作協力：アートセンター土砂

札幌市資料館の一室を「テラコヤ」化し、会期を通じて、テニス Courts ははじめ、ゲストや来場者などが出入りし、さまざまな体験や交流を通じた創作の場をつくり上げていきます。かつての「寺子屋(てらこや)」では、子どもたちが反復練習をすることで、読み書き・そろばんなどを習いました。この「寺子屋」になぞらえて、楽器やDJ、カラオケなどに加え、手紙やドローイングなどの練習がいつしか創作につながる、そんな空間が出現する予定です。またテニス Courts は、会期を通じて札幌市内に滞在し、さまざまな関連企画に出没する予定です。

NMAコンサート・オーガナイザー / SIAF2017エグゼクティブアドバイザー

沼山 良明 (日本)
NUMAYAMA YOSHIAKI

http://nma-sapporo.com



撮影：タスエリナ

1944年、北海道夕張郡由仁町生まれ、札幌市在住。本業はピアノ調律師。70年代後半、ジャズ評論家・副島輝人氏との出会いなどで前衛音楽に関心を深め、1983年ドイツのメルス・ニュージャズフェスティバルを見て、世界と日本の音楽情報のギャップに目覚めたことから、同年に営利を目的としないNMA(NOW MUSIC ARTS)を発足。国内外の先鋭的な音楽を札幌に紹介するコンサートを企画し、これまでに180回にのぼるコンサート(6回のフェスティバルを含む)を開催している。

テニス Courts (日本)

TENNISCOATS

http://tenniscoats.blue



さや(Vo ほか)と植野隆司(Guitar ほか)によるバンド。1996年の結成以後、国内外の多数のレーベルからの作品発表やツアー/ライブを重ね、さまざまなバンド/ミュージシャンとのコラボレーションも多数。長年のキャリアがありながらも、いつも結成当初のような状態で、まったく型にはまらない温かくもクールな活動と演奏を続けている。



札幌市資料館 SHIRYOKAN (Former Sapporo Court of Appeals)

札幌市中央区大通西13丁目

1926年に札幌控訴院(のちの札幌高等裁判所)として建てられ、1973年、裁判所の移転に伴い、札幌市資料館として開館しました。SIAFラボの活動拠点である「SIAF ラウンジ」や「SIAF プロジェクトルーム」のほか、控訴院時代の法廷を復元した「刑事法廷展示室」や、「まちの歴史展示室」、「おおば比呂司記念室」や、貸室の「ミニギャラリー」、「研修室」を有しています。札幌軟石を使った全国的にも貴重な建物であり、国の登録有形文化財に選定されています。

「旅」をテーマにした新作

展示 ￥ 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：札幌市円山動物園 西門イベントハウス(旧・魔境の伝説)
時間：9:30－16:30(最終入場16:00) | 休園日：第2・4水曜

クワクボリョウタが作品を発表する展示会場は円山動物園の西門付近にあり、かつては、クルーズ型アトラクション「魔境の伝説」として人気を博しましたが、2010年に閉館した建物です。クワクボリョウタはこの会場で、札幌市を含む全国の鳥瞰図を作成したことで知られる吉田初三郎の仕事を参照し、「旅」や「観光」をテーマとした作品を展開します。国や地方自治体などの行政から依頼を受け、その土地をくまなく歩き回り、街の見所や魅力を発見し、一枚の鳥瞰図として表現した吉田の姿は、今日数多ある芸術祭に招かれ作品を制作するアーティストたちの姿とも重なります。かつて未開のジャングルを旅する(気分を味わう)場所であった本会場で、来場者はどのような「旅」を体験するのでしょうか。

クワクボリョウタ〈日本〉 KUWAKUBO RYOTA http://ryotakuwakubo.com



1971年栃木県生まれ。アーティスト/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)准教授/多摩美術大学情報デザイン学科非常勤講師。1998年に明和電機との共作《Bitman》を制作し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション《10番目の感傷(点・線・面)》以降は、観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。そのほかの代表作に《ビデオバルブ》、《PLX》や、Sony CSLに開発参加した《ブロックジャム》、《ニコダマ》などがある。ソロ活動のかたわら、生活と実験のアートユニット「パーフェクトロン」の一員としても活動している。2015年にSIAFプロジェクトルーム(札幌市資料館)で《LOST #13》を発表、2017年のさっぽろ雪まつりでは《札幌ループライン》に技術協力に参加。

コタンペッププロジェクト

プロジェクト ￥ 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：円山公園 | 時間：未定 | 休館日：未定

円山はアイヌ語で「コタンベツ(コタン=村、ベツ=川)」と呼ばれ、その麓に円山扇状地が広がっています。かつては鮭が多く遡上した琴似川に合流する伏流水やメム(湧水)など、豊かで複雑な水系に涵養され、多くの樹種を擁する天然記念物である原始林を育んできました。本プロジェクトでは、大都市と自然が近接する円山に着目し、自然と人が共に歩んできた円山の環境、歴史、文化のさまざまな結びつきをひもとき、急速な都市化の中で、失い、見えなくなってしまったものごとを再発見します。未来を思考し、円山をまるごと体験する創造的なコタン(村)がSIAF2017に出現します。空間デザインは建築家・五十嵐淳が担当します。

五十嵐 淳〈日本〉 IGARASHI JUN http://jun-igarashi.com



1970年北海道生まれ。建築家として、1997年に事務所設立。札幌国際芸術祭2014では、YCAM InterLab+ 五十嵐 淳として《コログル公園 in ネイチャー》の設計を担当。主な受賞歴として、第19回吉岡賞、大阪現代演劇祭仮設劇場コンペ最優秀賞、BARBARA CAPPOCHIN ビエンナーレ国際建築賞グランプリ(イタリア)、AR AWARDS 2006(イギリス)など。主著に『五十嵐淳 / 状態の表示』(彰国社、2010年)、『五十嵐淳 / 状態の構築』(TOTO 出版、2011年)。



16

札幌市円山動物園
SAPPORO MARUYAMA ZOO
札幌市中央区宮ヶ丘3-1

1951年に北海道では初めての動物園として開園。約170種900点の動物を飼育・展示しています。札幌市の中心部からほど近くにありながら、円山原始林に隣接した豊かな自然に囲まれた同園は、子どもから大人まで楽しめる憩いの場となっています。また、ホッキョクグマやヨウスコウワニなど希少動物の繁殖に数多く成功するとともに、野生動物の保護活動や環境保全活動に力を入れており、環境教育の拠点としてメッセージを発信し続けています。



参考画像：吉田初三郎《札幌市観光鳥瞰図》1950年、札幌市中央図書館蔵



17

円山公園
MARUYAMA PARK
札幌市中央区宮ヶ丘

もとは明治初期に開拓使が設置した樹木の試験場でしたが、明治末から大正にかけて公園として整備されました。広大な敷地には円山球場や円山競技場、坂下グラウンドなどの運動施設を備え、円山動物園や隣接する北海道神宮、天然記念物に指定されている円山原始林とともに、レクリエーションやスポーツ文化の中心としての役割も担っています。園内には、試験場の名残をとどめるスギ林やカツラの大きな木も見られ、目を凝らすとリスや野草、野鳥なども数多く観察できます。

石川直樹展「New Map for North」

展示 ￥ 8月6日(日)－10月1日(日)

会場：札幌宮の森美術館 | 時間：10:30～19:00(最終入場18:30) | 休館日：火曜
企画協力：アヨロラボラトリー 協力：札幌宮の森美術館

カメラを携えて世界を縦横に歩き続けてきた写真家・石川直樹による個展です。北極やヒマラヤなどの極地から都市の路上に至るまで、世界各地を旅しながらその土地における出会いや驚きを写真によって記録し、行動し続けてきた石川の魅力に迫ります。石川は2001年から15年以上にわたり北海道を旅してきました。本展では、知床半島や網走などの道東地方、白老・登別を中心とした胆振地方などで撮影された作品をはじめ、サハリン島などの北方地域における写真群を展示します。白老・登別のパートは、アヨロラボラトリー(立石信一/国松希根太)と共同で行います。自然環境ばかりでなく遺跡や観光地などで重ねてきたフィールドワークの成果を、写真や彫刻、テキストの共作によって提示します。十代の頃から地球を歩き続けてきた石川直樹による、北へ/北からの眼差し。その軌跡をご覧ください。

石川 直樹〈日本〉 ISHIKAWA NAOKI http://www.straighttree.com



1977年東京都生まれ。写真家。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。2000年、『Pole to Pole プロジェクト』に参加して北極から南極を人力踏破。2001年、7大陸最高峰登頂を達成。人類学や民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。写真集『CORONA』(青土社)により第30回土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』(集英社)ほか多数。

アヨロラボラトリー AYORO LABORATORY



撮影：石川 直樹

白老、登別を中心にフィールドワークを行う。アヨロとは、今はもう地名としては残っていない、かつて白老と登別の境界域にあった地域の名称。立石信一(文筆家/アイヌ民族博物館)と国松希根太(彫刻家/飛生アートコミュニティー代表)の2名で活動しており、昨年から石川直樹と複数回にわたり共同でフィールドワークを行っている。

トークイベント

石川直樹 × アヨロラボラトリー

8月18日(金)
会 場：札幌宮の森美術館 特設会場
時 間：開場18:30 / スタート19:00
入場料：500円
定 員：60名
登壇者：石川 直樹、立石 信一、国松 希根太



18

札幌宮の森美術館
MIYANOMORI INTERNATIONAL
MUSEUM OF ART, SAPPORO
札幌市中央区宮の森2条11丁目2-1

20世紀後半以降の文化、芸術に関する美術館として、2006年4月、宮の森ミュージアム・ガーデン(MMG)内に総合開館。絵画・写真、立体造形など、多岐にわたる貴重な作品や資料の有効活用、調査研究を、質の高い展覧会やイベントの開催を通して実現しています。また、国内外の関係機関との連携を深めながら、活用される開かれた美術館として、活動の場を広げています。



Shiraoi 撮影：石川 直樹



Shiretoko 撮影：石川 直樹

岸野雄一 DJプロジェクト

プロジェクト **開催日未定** 会場：未定 | 時間：未定

常に地域の中で革新的な場をプロデュースするスタディスト、岸野雄一。岸野は近年、「誰でもウェルカム、異次元空間を街の中に作り出すこと」をテーマに、地域住民が交差する場でDJイベントを出現させる活動を行ってきました。このプロジェクトがいよいよ札幌に進出します。知人だけが集うパーティではなく、共通な嗜好をもたない人々との間に発見をもたらすことにより、音楽を通してリアルな隣人、そして地域性を改めて問うことを目的としています。SIAF2017では、札幌市内某所において本プロジェクトが出現する予定です。

岸野 雄一（日本）
KISHINO YUICHI



1963年東京都生まれ。音楽家・著述・講師など、多岐に渡る活動を包括する名称としてスタディストを名乗り、東京藝術大学大学院映像研究科や美学学校などで教鞭をとる。自身のプロジェクト「ヒゲの未亡人」「WATTS TOWERS」などでの活動のほか、海外からのアーティスト招聘やオーガナイズ、イベント企画を数多く手がける。テレビ・ラジオの出演や音楽批評、映画批評の執筆、講演も数多い。制作総指揮 / 主演を担当した音楽劇「正しい数の数え方」が、第19回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門大賞を受賞した。自身が主宰するレーベル「Out One Disc」では、OORUTAICHIやGangpol&Mitなど個性豊かなアーティストをプロデュース。第68回さっぽろ雪まつりでは大雪像を使った音楽影絵劇「トット商店街」を上演。常に革新的な「場」を模索している。

I HAVE a DREAM ～ひがし町パーカッションアンサンブル

ライブ **8月19日(土)、9月2日(土)、9月3日(日) ほか**

会場：8/19(土)北大マルシェ、9/2(土)札幌市電、9/3(日)札幌市資料館前 ほか | 時間：未定

企画者：医療法人薪水 浦河ひがし町診療所



ひがし町パーカッションアンサンブルは、北海道・浦河町にある浦河ひがし町診療所へ通う、障がいのある方たちを中心に結成された即興パフォーマンスグループです。日々を楽しみ、暮らしの中に多面的な価値を生み出していくことをテーマに、即興演奏を通じて、健常者も障がい者もなく、ともに笑い、表現できる、自由な場をつくろうと活動しています。一人ひとりの生み出す音やリズムを聞き、お互いを尊重しながら新しく音楽をつくっていく即興演奏は、誰もが簡単に参加でき、自分らしく振る舞うことのできるものです。SIAF2017では、会期中さまざまな場所でパフォーマンスを行います。同じ場所に居合わせた人たちにも参加していただき、それぞれの音やリズムを持ち寄って、大きな夢(音楽)をつくっていきます。

SIAF2017 オフィシャルバー OYOYO

8月6日(日)～10月1日(日)

会場：OYOYO まち×アートセンターさっぽろ | 時間：未定 | 休業日：未定 (ウェブサイトで後日公開予定)
※イベント開催時は有料の場合があります。

2008年、札幌市中心部にある「第2三谷ビル」6階にオープンして以来、札幌市民が多様なイベントを開催できる場として長く愛されている「OYOYO まち×アートセンターさっぽろ」(OYOYO)。SIAF2017では開催期間中OYOYOを、SIAFに來た方との交流、情報発信、イベントの拠点として活用します。また、総合インフォメーションセンターとするほか、参加アーティストやスタッフ関係者も来場する交流カフェバー「SIAF2017 オフィシャルバー OYOYO」をオープンし、期間中の夜の時間帯を楽しむ場として機能させます。さらに、参加アーティストによるアフタートークをはじめとした関連企画を行うイベントスペースを併設し、より深くSIAF2017を楽しめる、新たな出会いと発見にあふれた拠り所にもなります。オフィシャルバーのオープン日やイベントカレンダーは、SIAF2017公式サイトにて随時、ご案内します。



OYOYO まち×アートセンターさっぽろ
OYOYO MACHI×ART CENTER
SAPPORO

札幌市中央区南1条西6丁目8-1 第2三谷ビル6階

雑貨・喫茶・レストラン・理美容などが入居する「第2三谷ビル」に2008年オープンしたイベントスペース。ホールは一般に貸し出ししており、展覧会や音楽イベント、講座などさまざまな催しが開かれているほか、カフェスペースも併設しています。

中島公園百物語

公演 **8月19日(土)・20日(日)**

会場：札幌市こども人形劇場こぐま座前の広場 | 時間：開演19:30

※公演前の16時頃から中島公園内各所において妖怪たちによるショートパフォーマンスがあります。詳細は6月末発表予定のチラシまたはSIAF公式サイトをご覧ください。
企画者：公益財団法人北海道演劇財団、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 助成：文化庁(平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業)

豊かな自然に囲まれた札幌市民の憩いの場「中島公園」には、開拓時代にさかのぼる長い長い歴史があり、時代とともにその姿と役割を変えてきました。子どもと大人が「中島公園」をフィールドワークしながら、かつてあった出来事やエピソード、施設、人物などを掘り起こし、妖怪として蘇らせます。子どもたちがデザインした妖怪をつくりあげるのが人形劇作家の沢則行、妖怪物語をつむぎあげるのは劇作家・演出家の斎藤歩、北海道演劇財団「札幌座」と札幌市こども人形劇場こぐま座のスタッフたちもこの作品のため妖怪に変化し、過去と現在が交差する中島公園で妖怪パフォーマンスを子どもたちとともに繰り広げ、都市における公園の今後を展望します。



斎藤 歩（日本） SAITO AYUMU



釧路市出身。北海道大学演劇研究会を経て、「札幌ロマンチカシアター 魴鯨舎」、A.S.G(アーティスツ・ギルド・オブ・サッポロ)など数々の劇団に携わる。2000年より東京を拠点に舞台、映画、テレビで俳優として活動しながら、北海道演劇財団付属劇団のチーフディレクターとして「亀、もしくは…。」「冬のバイエル」「西線11条のアリア」「春のノクターン」「瀕死の王さま」など多数の演劇作品を発表。第67回さっぽろ雪まつりウィンターシアター「さっぽろ冬物語」構成・演出・出演。2016年、札幌に活動拠点を移す。北海道演劇財団芸術監督。

沢 則行（日本） SAWA NORIYUKI



小樽市出身。1991年に渡仏。1992年に文化庁在外研修生で、チェコへ。プラハを拠点に世界各国で公演。また、チェコ国立芸術アカデミー演劇・人形劇学部、米国スタンフォード大学演劇学科、シカゴ大学、ロンドン人形劇学校など、多くの教育の現場で講座、ワークショップを指導した経験を持つ。1999年、ヨーロッパ文化賞「フランツ・カフカ・メダル」授与。2009年、セルビア・スボティツァ国際児童演劇祭で演技賞、音楽賞をダブル受賞。2011年にはポーランド・カトヴィツェ市よりEU文化都市賞が贈られるなど、国際的受賞多数。第66回さっぽろ雪まつり巨大人形オペラ「雪の国のアリス」芸術監督。NHK『ようこそ先輩・課外授業』出演(2006年)、『みんなのうた』映像制作など。



中島公園 /
札幌市こども人形劇場こぐま座
NAKAJIMA PARK / SAPPORO
CHILDREN'S PUPPET THEATER
KOGUMAZA

札幌市中央区中島公園

「日本の都市公園100選」「日本の歴史公園100選」にも認定されている中島公園は、繁華街すすきのに隣接しながら、水と緑が豊かな憩いの場として親しまれています。また、公園内には、日本初の公立の人形劇専門劇場である札幌市こども人形劇場こぐま座や、札幌コンサートホール Kitaraなどの文化施設をはじめ、国の重要文化財である「豊平館」や「八窓庵」などが点在しています。

モバイルアースオープン

プロジェクト **8月6日(日)～10月1日(日)**

会場：旭山記念公園ほか | 時間：未定

企画者：安齋 伸也 共催：公益財団法人 札幌市公園緑化協会

「モバイルアースオープン」は野菜と土を通じて、「人のつながり」や「新たな芸術の姿」を自由な発想で表現するプロジェクトです。役目を終えた消防車の荷台に、自然素材だけで作られたオープン车载せた車が、SIAF2017会期中、旭山記念公園や市内のさまざまな場所やイベントに現れ、お越しいただいた方とともにオープンを囲んで野菜を調理します。会期前にはワークショップを開催し、北海道の土、砂、わらを材料に市民と一緒にオープンを手作りします。



ゲストハウス × ギャラリープロジェクト 「アートは旅の入り口」

展示 8月6日(日)－10月1日(日)

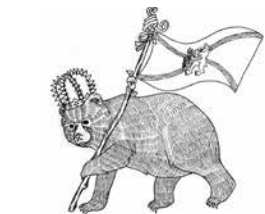
会場：市内ゲストハウス8カ所

時間：各施設による | 休館日：各施設による

企画者：札幌 ギャラリー×ゲストハウス プロジェクト実行委員会

近年、新しい旅の拠点としてその存在が注目されているゲストハウスを会場に、「旅」をテーマにした展覧会やイベントを行います。また、会場となる複数のゲストハウスや展示アーティスト、ギャラリーを紹介する冊子も日本語と英語のバイリンガルで制作します。SIAF2017の情報や札幌の見どころなども掲載し、ゲストハウス、ギャラリー、関係各所で販売することで、会期中の宿泊者や市民の周遊性を高めます。企画の中心となる「展示」では、市内の8カ所のゲストハウスが参加し、市内4カ所のギャラリーが選んだ、北海道を拠点に活躍する10組のアーティストがゲストハウスの空間にふさわしい作品を設置します。それぞれのゲストハウスが持っている個性とアーティストの個性が相乗効果を生み、より魅力的な場を作ります。

「旅」の中にある非日常感や人と人との偶然のつながり、また北海道の歴史や文化を、作品を通して感じてください。会期中には、ゲストハウスを横断するツアー企画や札幌の街を舞台とした写真のワークショップ、アーティストによるライブパフォーマンスなども行います。



相川 みつぐ 〈日本〉

AIKAWA MITSUGU

http://aikawamitsugu.com

1976年生まれ、札幌市在住。2008年より活動をスタート。得意のフリーハンドで描く「線」から生まれる作品は、ハードなものから繊細なものまで、タッチを自在に使い分け製作している。白老・飛生で開催されているイベントTOBIU CAMPのヴィジュアルを担当するほか、店舗などの壁画制作、CDジャケットやキャラクターデザイン、商業CMイラストなど幅広く活躍。イラストレーターユニット「analog」、「meltingman」としても活動している。



富士 翔太郎 〈日本〉

FUJI SHOTARO

http://fujishotaro.jp

札幌市生まれ、札幌市在住。東京造形大学デザイン学科を卒業。絵の仕事を続けながら、小学校や福祉施設に滞在し、ワークショップ形式で参加者と作品を共同制作する芸術活動を行っている。アートや音楽の楽しさ、その可能性をさまざまな媒体を通して積極的に表現。作品カテゴリーも幅広く、ウォールペイントや照明作品、イラストを中心にアクリル画、絵本、コラージュなども手掛ける。

ゲストハウス

UNTAPPED HOSTEL

札幌市北区北18条西4丁目1-8
http://untappedhostel.com

上ノ 大作、ワビサビ、相川 みつぐ

WAYA

札幌市豊平区豊平2条4丁目1-43
http://waya-gh.com
鈴木 悠哉

雪結 (yuyu)

札幌市中央区南3条東4丁目3-13
http://yuyu-gh.com
南 阿沙美、酒井 広司

Ten to Ten

Hokkaido Hostel & Kitchen

札幌市中央区南8条西5丁目288-5
http://tentotentoten.com

富士 翔太郎

SappoLodge

札幌市中央区南5条東1丁目1-4
http://www.sappolodge.com

白濱 雅也

THE STAY SAPPORO

札幌市中央区南5条西9丁目1008-10
http://thestaysapporo.com
斉藤 幹男

めざましサンド店

札幌市中央区南4条東3丁目ハイツ昭和1階
http://mezamashi-sandwich.com

相川 みつぐ

札幌ゲストハウスやすべえ

札幌市中央区南10条西7丁目6-6
http://yasube.jp

東方 悠平

ギャラリー

Kita:Kara Gallery

札幌市中央区大通西5丁目
大五ビルディング3階
http://www.kitakara.org

GALLERY 門馬& ANNEX

札幌市中央区旭ヶ丘2丁目3-38
http://www.g-monma.com

salon cojica

札幌市北区北23条西8丁目
coneco bld.1階
http://www.salon-cojica.com

TO OV cafe/gallery

札幌市中央区南9条西3丁目2-1
マジソンハイツ1階
http://toov.cafe.coocan.jp



斉藤 幹男 〈日本〉

SAITO MIKIO

1978年札幌市生まれ。2002年フランクフルト・シュテューゲル芸術学院に進学、2007年マイスターシュレ取得。手描きのアニメーションとCGを組み合わせ、アナログ・デジタル双方の魅力を引き出す映像作品の制作を行う。海外での個展開催やアーティスト活動を経て、2009年より札幌を拠点とし、国内外のアートイベントや芸術祭で作品の上映、市民参加型のワークショップ形式の作品制作や音楽家とのコラボレーションなども積極的に行っている。



白濱 雅也 〈日本〉

SHIRAHAMA MASAYA

1961年岩手県釜石市生まれ。90年代より物語的な不条理絵画や立体を発表する。東日本大震災による故郷の被災や親類の死を機に、鎮魂と再生の意を込めた木彫神像に力を入れている。2014年に「祭、炎上、沈黙、そして…POST3.11」展(東京都美術館)、続編となる「光明の種 POST3.11」(原爆の図丸木美術館)を開催。2014年より十勝に在住し、ArtLabo北舟 / NorthernArkを開設、主宰している。



酒井 広司 〈日本〉

SAKAI KOJI

1960年余市町生まれ、札幌市在住。1970年代から北海道をさまざまなシリーズで撮影、制作。主に「夏の消失点」(1979年)や1990年代から続く「偶景 / SightSeeing」、「そこに立つもの」、「北海道の旅」など。2014年、札幌国際芸術祭2014連携事業「表出する写真、北海道」展(NPO北海道を発信するネットワーク主催)の企画、編集を担当。同年、第30回写真の町東川賞特別作家賞受賞。2016年、第68回北海道文化奨励賞受賞。



東方 悠平 〈日本〉

HIGASHIKATA YUHEI

http://higashikata.com

1982年札幌市出身。日用品や鉄、水、マスコットキャラクターなど多様な素材を組み合わせたユーモアのあるインスタレーションや、ワークショップなどを手がける。主な展覧会に個展「Authentic Fabrication-Sapporo 軟石を投じる!」(Hue Universal Gallery、2015年)、個展「死なないM浦Y一郎」(Art Center Ongoing、2013年)。



南 阿沙美 〈日本〉

MINAMI ASAMI

http://minamiasami.com

札幌市生まれ、東京都在住。写真家。2014年キャノン写真新世紀優秀賞受賞。代表作は「MATSUOKA!」、「親子写真入門」、「sheHerHers」。2016年には写真と短歌の個展「オートマチック乙女ちゃん」開催。その他展覧会、アートフェアに参加。2017年は鳥取のアーティストインレジデンス、トウフビルプロジェクトにて「豆腐の角にぶつけた頭」vol.1の制作をしている。



上ノ 大作 〈日本〉

UENO DAISAKU

1970年生まれ北広島市を拠点とする。25歳の時、約6年のサラリーマン生活から陶芸の道に飛び込み9か月かけてオートバイで全国の窯元を巡る旅をする。札幌近郊の北広島市に穴窯をつくり、道内の土を使った焼締の陶づくりを中心に、近年は木や竹等自然に由来する素材を用い屋内外を問わず空間に立体物を構築している。2016年、第26回道銀芸術文化奨励賞受賞。



ワビサビ 〈日本〉

WABISABI

1999年、工藤“ワビ”良平と中西“サビ”一志によって結成されたデザインコンビ。アドバタイジングから、グラフィックデザイン、オブジェ、映像、音楽、インテリア、ファッションまで多方面での制作活動を行っている。ワビの主宰する「デザ院株式会社」所属。JAGDA運営委員、SADC運営委員。NY-ADCやJAGDA新人賞など国内外で受賞多数。



鈴木 悠哉 〈日本〉

SUZUKI YUYA

2007年、日本大学芸術学部美術学科版画専攻卒業。2012～2015年にわたりドイツを拠点に活動。現在は札幌を拠点とする。主な展覧会に「アッセンブリッジナゴヤ2016」(MAT)、「ともにいること ともにあること展」(北海道立近代美術館、2016年)など。Think tank lab Triennale / open call exhibition 入賞、札幌駅JRタワーアートボックス2014(優秀賞)、ART OSAKA2013グランプリなど受賞多数。

特別協カプログラム

マームとジプシー 10th Anniversary Tour 〈札幌公演〉

公演 ￥ 8月16日(水)、19日(土)、20日(日)

会場：札幌市教育文化会館 | 時間：16日(水)開演19:00、19日(土)開演13:00/18:30、20日(日)開演14:00

主催：公益財団法人北海道文化財団 共催：公益財団法人札幌市芸術文化財団 特別協力：札幌国際芸術祭実行委員会
※チケット料金などの詳細は、北海道文化財団のウェブサイトをご覧ください。http://haf.jp

日本の現代演劇をリードする劇作家・演出家の藤田貴大率いるマームとジプシー。その時々過去作品に手を加え、現在進行形の作品として作品を磨き上げてきた彼らが、モチーフごとに過去の10作品を3作品+1作品に作り替え、結成10周年の節目の年に、満を持して札幌に初登場します。上演する作品は、岸田國士戯曲賞受賞作を含む『AAA かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと——』、「夜」と「不在」をモチーフにした夜三作『夜、さよなら』『夜が明けないまま、朝』『Kと真夜中のほとりて』、最初期の作品を含む動物三作『クラゲノココロ』『モモノパノラマ』『ヒダリメノヒダ』、30代女性の等身大の姿を描いた隠れた人気作『あっこのはなし』。「少しでも多くの演劇作品を見てもらいたい」という藤田の想いから、上演形式にも工夫をこらした画期的な公演が実現します。



「AAA かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと——」 撮影：橋本 倫史

マレウレウ祭り in SIAF2017

～目指せ100万人のウポポ大合唱～

ライブ **¥** 9月3日(日)

会場：札幌芸術の森 野外ステージ
時間：開演14:00 | 料金：2,500円
出演：マレウレウ、OKI、大友 良英、原田 郁子、鄭捷任、陳建年、
吳昊恩、章素琳、荻部絲
助成：台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

2011年よりスタートした、マレウレウが主体となりゲストアーティストを迎える音楽フェスティバル「マレウレウ祭り」は、「目指せ100万人のウポポ大合唱」というサブタイトルを掲げ、年に一回をベースに開催されています。SIAF2017では、日本からOKIと原田郁子、台湾から原住民のアーティストの鄭捷任、陳建年、吳昊恩、章素琳、荻部絲を迎えます。さらに、大友良英も参加し、今回のみのスペシャルセッションが実現します。観客を巻き込んだライブ・ウポポ(アイヌの伝統歌)のワークショップも開催予定です。



OKI (日本)



大友 良英 (日本)
OTOYO YOSHIHIDE



原田 郁子 (日本) HARADA IKUKO



陳建年 (台湾) CHEN CHIEN-NIEN



章素琳 (台湾) KAKUROT JHANG



鄭捷任 (台湾) CHENG JYE-RENN



吳昊恩 (台湾) HAO-EN WU



荻部絲 (台湾) TIPUS CHEN

マレウレウ (日本)
MAREWREW
http://www.tonkori.com



アイヌの伝統歌「ウポポ」の再生と伝承をテーマに活動する女性ヴォーカルグループ。さまざまなリズムパターンで構成される、天然トランスな感覚が特徴の輪唱など、アイヌ ROOTS のウポポを忠実に再現する貴重なアーティスト。2010年、活動を本格化。NHK(Eテレ)の人気子供番組『にほんごであそぼ』や、『妄想ニホン料理』への出演、ワールドミュージックの世界的な祭典 Womad(イギリス)をはじめとするヨーロッパ公演など、国内のみならず海外でもその活動が注目されている。マレウレウはアイヌ語で「蝶」のこと。

raprap

公演 **¥** 8月23日(水)ー26日(土)

会場：扇谷記念スタジオ・シアター ZOO
時間：23日(水)開演19:00、24日(木)開演14:00 / 19:00、
25日(金)開演19:30、26日(土)開演14:00
※開場は開演の30分前
料金：一般3,500円、高校生以下1,500円
出演：マレウレウ、チョン・ヨンドゥ、東海林 靖志、渡辺 はるか、有泉 汐織

主催：公益財団法人北海道演劇財団 共催：札幌国際芸術祭実行委員会 / 札幌市
協力：NPO法人札幌座くらぶ、さっぽろ天神山アートスタジオ
助成：文化庁(平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業)

マレウレウ (日本) MAREWREW

→P38参照

チョン・ヨンドゥ (韓国) JUNG YOUNG DOO



「Doo Dance Theater」代表。横浜ダンスコレクション2004で横浜文化財団大賞・駐日フランス大使館特別賞を受賞。心に深く訴えかける数々のダンス作品を発表し、韓国を代表する気鋭のダンサー・振付家の一人として国際的な評価を獲得。マレビトの会への出演、京都国際ダンスワークショップの講師、横浜ダンスコレクション2016オープニングプログラム「無・音・花」の振付など、日本でも多くの支持を集める。現在、立教大学現代心理学部映像身体学科特任准教授。

東海林 靖志 (日本) SHOJI YASUSHI

http://yasushi-shoji.com



2006年「瞬 project」結成を機に舞台活動をスタート。舞踊家/振付家の平原慎太郎が主宰する「OrganWorks」、俳優の柴田智之とのユニット「鳥坊主」、柳本雅寛主宰「+81」にダンサーで参加。森山開次、島地保武、Carmen Werner、齊藤智仁(YUMENOKUNI)、橋口幸絵など、国内外のコンテンポラリーダンス作品、演劇作品にも出演。ヨガや独自に培ってきた身体技法をベースに、振付、異分野アーティストとの創作、さまざまな対象に向けたワークショップも精力的に行っている。

渡辺 はるか (日本) WATANABE HARUKA



5歳よりモダンダンスを岡田香、鈴木千穂に師事。2014年より、平原慎太郎主催「OrganWorks」に所属、作品に出演。立教大学現代心理学部映像身体学科を卒業し、在学中はチョン・ヨンドゥのもとで学ぶ。自作ソロを発表した横浜ダンスコレクションEX2016にてMASDANZA賞、Touchipoint Art Foundation賞、21MASDANZAにてベストソロ、オーディエンス賞を受賞。

有泉 汐織 (日本) ARIIZUMI SHIORI



8歳よりクラシックバレエを始め、NBAバレエ団付属バレエスクールにて大島律子、ABCtokyo バレエ団付属スクールにてクリスティアン・マルティーン、三谷梨央に師事。2013年立教大学現代心理学部映像身体学科に入学、チョン・ヨンドゥに師事。2013年夏にアントワープロイヤルバレエスクールのサマープログラムに参加。その後、バレエ、コンテンポラリー、ミュージカル公演などに出演。Nect オーディションをきっかけに二瓶野枝に師事。2016年9月よりNectダンサーとして所属後、現在はチョン・ヨンドゥ氏のもとで活動している。



扇谷記念スタジオ・シアター ZOO
OUGIYA MEMORIAL STUDIO
THEATER ZOO

札幌市中央区南11条西1丁目3-17
ファミリー中島公園地下1階

2001年にオープンした小劇場。さまざまなイベントや長期稽古場として利用できる二つのスタジオを備えており、年数本の企画公演、道内外の団体との提携公演、演劇ワークショップや演劇を通したネットワークづくりや人材育成など、創造型劇場・地域密着型劇場として、さまざまな活動を展開しています。



Photo : saki matsumura

Asian Sounds Research Presents

OPEN GATE 2017

動き続ける展覧会～An ever-changing exhibition 「何もないところから」～start from here

プロジェクト 9月15日(金)－18日(月・祝)

会場：石山緑地
時間：15:00～18:30 ※パフォーマンスは日没前後(17:00頃～)
参加アーティスト：米子 匡司、水内 義人、chi too、Adam Kitingan、WinWin、さや、植野 隆司、樋口 勇輝、渡部 勇介 ほか

主催：札幌国際芸術祭実行委員会 / 札幌市、国際交流基金アジアセンター
共催：P3 art and environment
企画：Sachiko M (音楽家 / アジアン・サ운ズ・リサーチ プロジェクトディレクター)

「OPEN GATE」は、Sachiko M がプロジェクトディレクターを務める「アジアン・サ운ズ・リサーチ」* が行う、ASEAN 諸国でのリサーチをもとに生み出された企画展覧会です。場所や環境を共有していく中でサウンドとアートが共存しながら日々変貌していく特徴的な空間を創出し、展覧会や公演という概念を超えた独自のスタイルを生み、ひとつとして同じ瞬間のない「動き続ける展覧会」として、訪れた人々を魅了してきました。

2015年 Hin Bus Depot(マレーシア・ベナン島)、2016年あいちトリエンナーレ2016(愛知県岡崎市)に続く開催となる今回の「OPEN GATE 2017」は、会場となる石山緑地(札幌市南区)の広大な土地、凜とした空間からのインスピレーションを受けた新たな発表形態を試みる、実験的な4日間の展覧会とパフォーマンスとなります。生まれては消えてゆく「動き続ける展覧会」の始まりと終わり、その瞬間の音や作品の数々は、二度とない特別な時間と空間を生み出すことになるでしょう。

*国際交流基金アジアセンターとP3 art and environment が共催する、アジアの新たな音楽の可能性を世界に発信するプロジェクト「アンサンブルズ・アジア」の一部門。
<https://www.soundsresearch.com>

関連展示

OPEN GATE の部屋 ～ 動き続けた展覧会、動き続ける記録たち OPEN GATE archive room ～ The ever-changing archives of Asian Sounds Research

9月6日(水)－10月1日(日) | 8月6日(日)～カフェスペースでの小さな展示
会場：TO OV cafe/gallery (札幌市中央区南9条西3丁目2-1 マジソンハイツ1階)
時間：月－土 10:30－22:00、日 10:30－20:00 | 会期中無休 ※9/29(金)はイベントのため17:30まで
映像：樋口 勇輝 | 写真：WinWin、渡部 勇介、松本 美枝子 | キュレーション：Sachiko M

2014年のマレーシア・ベナン島リサーチから2017年のカンボジア・パットンバンリサーチまで、音楽と美術、その「あいだ」にある未知なる表現を追い求め続けた Asian Sounds Research プロジェクトの活動を、映像、写真、作品にて振り返るアーカイブ展です。カフェスペース片隅での小さな展示は8月6日(日)から始まります。9月6日(水)からはアーカイブ映像を中心に、これまでの旅路の記録を展示します。さらに「OPEN GATE 2017」会期終了後に記録を更新し、展示にその様子を反映させる「もう一つの動き続ける展覧会」となります。旅の始まりと終わりとその続きをゆっくりとお楽しみいただける、そんな特別な時間と空間を感じる「部屋」です。

Sachiko M

<http://teamsachikom.wixsite.com/sachiko-m>



「OPEN GATE 2016」より Photo : WinWin

即興演奏家 / 作曲家。テスト用の信号音(サインウェーブ)を使った電子楽器を演奏し、世界的に活躍している。2003年アルスエレクトロニカでゴールドデンニカ(最優秀賞)受賞。サウンドインスタレーション作品発表、写真集出版など活動が多岐にわたるなか、NHK連続テレビ小説『あまちゃん』劇中歌の作曲に参加。大友良英と共に手がけた「潮騒のメモリー」で第55回日本レコード大賞作曲賞受賞。以降、ドラマの劇中歌を中心に作曲活動を開始。2014年から「アジアン・サ운ズ・リサーチ」プロジェクトディレクターとして、“音楽”と“美術”の間に切り込む新たな形の発表を試み続け、「OPEN GATE」のディレクション&キュレーションを行っている。



石山緑地 ISHIYAMA OPEN SPACE

札幌市南区石山78

かつて建材に最適とされた札幌軟石の巨大な石切り場跡を利用した公園。市道を挟んで北と南に分かれており、南ブロックには、公園を包み込むように切り立った岩肌が露出したまま残され、採石場であったこの地域の歴史を物語る遺産となっています。札幌市街地から芸術の森へ向かう中間に位置しており、独特の景観と静けさのある場所として市民に親しまれています。



「OPEN GATE 2016」より 撮影：渡部 勇介

mima 北海道立三岸好太郎美術館 開館50周年記念 特別展

お月さままで飛んでいく音 + 飛び出ス事ハ自由ダ 大友良英アーカイブ + 三岸好太郎ワークス

展示 9月2日(土)－10月1日(日)

会場：mima 北海道立三岸好太郎美術館

時間：9:30－17:00(入場は16:30まで) | 休館日：月曜、9月19日(火)※9月18(月・祝)は開館

主催：mima 北海道立三岸好太郎美術館 共催：札幌国際芸術祭実行委員会/札幌市

mima 北海道立三岸好太郎美術館では、大友良英と三岸好太郎の共演による特別展「大友良英アーカイブ+三岸好太郎ワークス」を開催します。

大友良英の活動は、現代アートの文脈で紹介される表現、ジャズを中心とする各種音楽家とのプロジェクト、実験音楽、テレビ、映画の劇伴など多岐にわたりますが、それらはすべて「アンサンブル」という視点で構築されています。大友にとって「アンサンブル」とは、常に反復可能な同一のスコアによる表現ではなく、参加者の偶然性にゆだねた上で、全体が一つの表現として成立することを目指すものです。1990年代から続くその作品と活動は、独自の「即興」表現の仕組みを作る試みの継続であると捉えることができます。

一方、三岸好太郎は札幌に生まれ、日本近代を代表する画家の一人として活躍しました。スタイルやテーマを目まぐるしく変えながら、わずか10年余りの短い画業を駆け抜けました。その作品には豊かな詩情が漂い、見る者をイメージの彼方へ連れ出します。

本展では、大友良英の作品とその多彩な活動を支えてきた関連資料、そして三岸好太郎の作品を2フロアにわたって紹介します。音楽と絵画、それぞれの表現をひらいてきた二人の軌跡が小さな美術館の吹き抜けの空間でクロスする、初めての展覧会です。



21

mima
北海道立三岸好太郎美術館
MIGISHI KOTARO MUSEUM OF ART,
HOKKAIDO

札幌市中央区北2条西15丁目

220点の作品が遺族から北海道に寄贈されたことを機に、1967年、北海道立美術館(三岸好太郎記念室)として開館しました。その後、1977年に北海道立三岸好太郎美術館と改称して再発足し、さらに1983年、現在地に新館をオープンしました。最初の出発から半世紀。公募で決定した愛称「mima(ミマ)」とともに、新しい始まりの1年を迎えました。三岸好太郎の画業とともに、彼の進取の精神と結び合う新しい芸術表現の紹介にも取り組みます。

大友 良英〈日本〉

OTOMO YOSHIHIDE → P5参照



撮影：佐藤 類

三岸 好太郎〈日本〉

MIGISHI KOTARO



1903年札幌生まれ。札幌第一中学校(現・札幌南高等学校)卒業後、画家を目指して上京。苦労を重ねながら独学で絵画の勉強を続ける。20歳で第1回春陽会展に厳選を通過して入選。翌年、春陽会賞を首席で受賞し、一躍画壇で脚光を浴びる。初期は素朴な作風の人物画を得意としたが、中国旅行を経て生来のロマンティズムを刺激され、帰国後は道化を題材とした連作に取り組んだ。やがて前衛的な表現を志向するようになり、ひっきり線を用いた作品や抽象的作品、蝶と貝殻をモチーフとした超現実主義的作品など、短期間で数々の試みを展開。モダンな構想によるアトリエの建設にも着手したが、1934年、旅先の名古屋で病のため永眠する。享年31歳。

インフォメーションセンター

SIAF2017に関する各種情報や市内の各種観光情報の提供・発信、SIAFパスポートや公式グッズなどを販売するSIAF2017インフォメーションセンターを「大通すわろうテラス」、「SIAFラウンジ」、「OYOYO まち×アートセンター」、「JRタワー(※)」の市内4カ所に設置し、来場者の皆さんを出迎えます。



JRタワー



大通すわろうテラス



SIAFラウンジ



OYOYO まち×アートセンター

札幌国際芸術祭2017ボランティア

2016年10月より、SIAF2017のボランティア活動についての内容や仕組みについて考える「ボランティアプロジェクト」を実施し、参加者の皆さんと意見交換を重ねました。たくさんのご意見を参考に、SIAF2017のボランティアの仕組みを決定しました。会期中は札幌市資料館にボランティアセンターを設置し、各会場で活動するボランティアの窓口となります。

活動内容

- ・各会場やプロジェクトでの会場案内、マップ配布、簡単な作品解説など
- ・ボランティア自身が自由な発想で活動内容を考え実施

活動場所

モエレ沼公園、札幌芸術の森、札幌市資料館など各会場

参加条件

- ・15歳以上(中学生は除く)
- ・活動マニュアルや連絡事項などを順守できること

待 遇

- ・活動していただいた方にはノベルティをお渡しします
- ・ボランティア保険が適用されます(個人負担はありません)
- ・交通費の支給はありません

参加方法

- 1 5月11日(木)より専用ウェブサイト(<http://v.siaf.jp>)にて、ボランティア登録
※インターネットを利用されない方は、札幌市コールセンター(電話 011-222-4894)までご連絡ください
- 2 情報を受け取る
- 3 活動に申し込む(7月頃から) ※事前勉強会への参加が必要な活動もあります。

SAPPORO
INTERNATIONAL
ART FESTIVAL

2017
札幌国際
芸術祭

ボランティア
募集

登録開始
2017年5月11日(木)～

ボランティア活動の説明会
5月20日(土) 10:00-11:30
札幌市教育文化会館 南講堂
5月24日(水) 18:30-20:00
札幌市資料館 南研修室

ボランティアって
なんだ？

<http://v.siaf.jp>

札幌市資料館 南研修室

札幌市教育文化会館 南講堂

札幌市中央図書館 2F

札幌市中央図書館 3F

札幌市中央図書館 4F

札幌市中央図書館 5F

札幌市中央図書館 6F

札幌市中央図書館 7F

札幌市中央図書館 8F

札幌市中央図書館 9F

札幌市中央図書館 10F

札幌市中央図書館 11F

札幌市中央図書館 12F

札幌市中央図書館 13F

札幌市中央図書館 14F

札幌市中央図書館 15F

札幌市中央図書館 16F

札幌市中央図書館 17F

札幌市中央図書館 18F

札幌市中央図書館 19F

札幌市中央図書館 20F

札幌市中央図書館 21F

札幌市中央図書館 22F

札幌市中央図書館 23F

札幌市中央図書館 24F

札幌市中央図書館 25F

札幌市中央図書館 26F

札幌市中央図書館 27F

札幌市中央図書館 28F

札幌市中央図書館 29F

札幌市中央図書館 30F

札幌市中央図書館 31F

札幌市中央図書館 32F

札幌市中央図書館 33F

札幌市中央図書館 34F

札幌市中央図書館 35F

札幌市中央図書館 36F

札幌市中央図書館 37F

札幌市中央図書館 38F

札幌市中央図書館 39F

札幌市中央図書館 40F

札幌市中央図書館 41F

札幌市中央図書館 42F

札幌市中央図書館 43F

札幌市中央図書館 44F

札幌市中央図書館 45F

札幌市中央図書館 46F

札幌市中央図書館 47F

札幌市中央図書館 48F

札幌市中央図書館 49F

札幌市中央図書館 50F

札幌市中央図書館 51F

札幌市中央図書館 52F

札幌市中央図書館 53F

札幌市中央図書館 54F

札幌市中央図書館 55F

札幌市中央図書館 56F

札幌市中央図書館 57F

札幌市中央図書館 58F

札幌市中央図書館 59F

札幌市中央図書館 60F

札幌市中央図書館 61F

札幌市中央図書館 62F

札幌市中央図書館 63F

札幌市中央図書館 64F

札幌市中央図書館 65F

札幌市中央図書館 66F

札幌市中央図書館 67F

札幌市中央図書館 68F

札幌市中央図書館 69F

札幌市中央図書館 70F

札幌市中央図書館 71F

札幌市中央図書館 72F

札幌市中央図書館 73F

札幌市中央図書館 74F

札幌市中央図書館 75F

札幌市中央図書館 76F

札幌市中央図書館 77F

札幌市中央図書館 78F

札幌市中央図書館 79F

札幌市中央図書館 80F

札幌市中央図書館 81F

札幌市中央図書館 82F

札幌市中央図書館 83F

札幌市中央図書館 84F

札幌市中央図書館 85F

札幌市中央図書館 86F

札幌市中央図書館 87F

札幌市中央図書館 88F

札幌市中央図書館 89F

札幌市中央図書館 90F

札幌市中央図書館 91F

札幌市中央図書館 92F

札幌市中央図書館 93F

札幌市中央図書館 94F

札幌市中央図書館 95F

札幌市中央図書館 96F

札幌市中央図書館 97F

札幌市中央図書館 98F

札幌市中央図書館 99F

札幌市中央図書館 100F

大友良英アーカイブより/ギターケースとレコードプレーヤー

三岸好太郎〈オーケストラ〉1933年／北海道立三岸好太郎美術館蔵

パスポート情報

前売券

5月17日(水)発売



当日券



一般



市民・道民



高校・大学生

パスポート 会期中、有料会場に何度も入場できるチケットです。

	前売券 (～8/5)	当日券 (8/6～10/1)	団体割引券 (20名以上)
一般	1,500円 当日券より700円もお得！	2,200円	1,700円
市民・道民	1,300円 早割(5月31日まで) 1,200円	1,800円	1,700円
高校・大学生	700円	800円	—

※中学生以下は無料です(一部、会場を除く)。※障がいのある方及び介助される方1名は無料です(会場窓口で障害者手帳などを提示)。
※代金お支払い後の変更、払い戻し、再発行はいたしかねます。※一部の会場では、別に料金が必要となります。
※詳細はSIAF2017公式サイトでご確認ください。

パスポート取り扱い

前売券 (～8/5)	一般	チケットぴあ(Pコード:768-398)、ローソンチケット(Lコード:12354)、セブン-イレブン
	市民・道民	札幌市内プレイガイド(道新プレイガイド、大丸プレイガイド、チケットポート札幌店)、または、北海道内のイオン・イオンスーパーセンター各店舗 ※住所を確認できるものをお持ちください。
	高校・大学生	上記の一般券、市民・道民券の取扱場所 ※学生証などをお持ちください。
当日券	主要会場(モエレ沼公園、札幌芸術の森、札幌市資料館 など)、北海道内イオン・イオンスーパーセンター各店	

※チケットぴあ、ローソンチケット、セブン-イレブンでの購入は引換券となります(購入の際、手数料がかかる場合があります)。
会期中、主要会場(モエレ沼公園、札幌芸術の森、札幌市資料館など)で、パスポートとお引き換えください。

パスポート提示で割引料金で入場できる会場

札幌宮の森美術館	300円(通常料金800円/高校・大学生600円)※割引料金適用は1回のみ。
札幌市円山動物園	200円(通常料金600円)※1回入場料を支払うと会期中に何度でも入園できます。
mima 北海道立三岸好太郎美術館	500円/高校・大学生250円(通常料金610円/高校・大学生360円)

個別鑑賞チケット 1会場につき1回のみ入場できるチケットです。

モエレ沼公園 JRタワープラニスホール	500円(学生割引はありません) ※まちなか会場の周遊券などもあります。
札幌芸術の森	一般 1,100円 団体(20人以上) 900円 高校・大学生 600円 団体(20人以上) 500円

※前売券の販売はありません。※各会場にて販売します。

札幌国際芸術祭事務局

TEL：011-211-2314(土・日・祝祭日を除く8:45～17:15) E-MAIL：info@siaf.jp

URL：http://siaf.jp Facebook：https://www.facebook.com/siaf2014info

開催スケジュール

開催期間：8月6日(日)～10月1日(日)

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
31	8.1	2	3	4 さっぽろ八月祭	5 DOMMUNE 配信	6 SIAF2017 開幕 DOMMUNE 配信
7	8 金市館ビル休館 HUG 休館 宮の森美術館休館	9 円山動物園休園	10	11 山の日 特別プログラム 「北海道の三至宝」	12	13
14 CAIO2休廊 すすきのエリア休み 北大博物館休館 資料館休館	15 金市館ビル休館 HUG 休館 宮の森美術館休館	16 マームとジブシー	17	18 トーク「石川直樹×アヨロラボトリー」 DOMMUNE 配信	19 ひがし町バーカバッションアンサンブル 中島公園百物語 マームとジブシー DOMMUNE 配信	20 上映&トーク「根源的なTV表現を再発見する」
21 CAIO2休廊 すすきのエリア休み 北大博物館休館 資料館休館	22 金市館ビル休館 HUG 休館 宮の森美術館休館	23 raprap	24	25	26	27 さっぽろコレクティブ・オーケストラ
28 CAIO2休廊 すすきのエリア休み 北大博物館休館 資料館休館	29 金市館ビル休館 HUG 休館 宮の森美術館休館	30	31	9.1	2 ひがし町バーカバッションアンサンブル 大友良英アーカイブ+三岸好太郎ワークス開幕	3 マレウレウ祭り 北大博物館休館
4 CAIO2休廊 すすきのエリア休み 北大博物館休館 資料館休館 三岸好太郎美術館休館	5 金市館ビル休館 HUG 休館 宮の森美術館休館	6	7	8	9 モエレ沼公園休み	10
11 CAIO2休廊 すすきのエリア休み 北大博物館休館 資料館休館 三岸好太郎美術館休館	12 金市館ビル休館 HUG 休館 宮の森美術館休館	13	14	15 OPEN GATE 2017	16 DOMMUNE 配信	17
18 敬老の日 OPEN GATE 2017	19 北大博物館休館 金市館ビル休館 HUG 休館 資料館休館 宮の森美術館休館 三岸好太郎美術館休館	20	21	22	23 秋分の日 アジアン・ミーティング・フェスティバル2017 札幌市電×指輪ホテル	24
25 CAIO2休廊 すすきのエリア休み 北大博物館休館 資料館休館 三岸好太郎美術館休館	26 金市館ビル休館 HUG 休館 宮の森美術館休館	27	28	29	30	10.1 閉幕

※スケジュールは変更されることがあります。詳細はSIAF2017公式サイトをご確認ください。
※すすきのエリアは、北専プラザ佐野ビル、AGS6・3ビルです。

主要会場へのアクセス

新千歳空港 → 札幌駅 JR 37分 | バス 80分 | タクシー 60分

JR 札幌駅 → 地下鉄大通駅 地下鉄 1分 | 徒歩 10分 | タクシー 3分



SIAF2017マップ

1 モエレ沼公園 (⇒P10-13)

札幌市東区モエレ沼公園1-1

・さっぽろ駅～(地下鉄5分)～環状通東駅～(バス25分)～モエレ沼公園東口
・さっぽろ駅・大通駅周辺から車で30分

2 札幌芸術の森 (⇒P14-16・38)

札幌市南区芸術の森2丁目75

・さっぽろ駅～(地下鉄18分)～真駒内駅～(バス15分)～芸術の森入口
・さっぽろ駅・大通駅周辺より車で35分

3 札幌市立大学 芸術の森キャンパス (⇒P17)

札幌市南区芸術の森1丁目

・さっぽろ駅～(地下鉄18分)～真駒内駅～(バス12分)～札幌市立大学前
下車、徒歩3分
・さっぽろ駅・大通駅周辺より車で35分

4 大漁居酒屋 てっちゃん (⇒P18)

札幌市中央区南3条西4丁目 カミヤビル7階

地下鉄すすきの駅2番出口より徒歩2分

5 北専プラザ佐野ビル (⇒P18・20-21)

札幌市中央区南5条西3丁目2 地下1・5階

さっぽろ駅～(地下鉄3分)～すすきの駅下車、徒歩2分

6 CAI02 (⇒P21)

札幌市中央区大通西5丁目8 昭和ビル 地下2階

地下鉄大通駅1番出口直結

7 AGS6・3ビル (⇒P22)

札幌市中央区南6条西3丁目13

さっぽろ駅～(地下鉄3分)～すすきの駅下車、徒歩3分

8 金市館ビル (⇒P23)

札幌市中央区南2条西2丁目1

・地下鉄大通駅36番出口より徒歩1分
・さっぽろ駅～(地下鉄約3分)～豊水すすきの駅下車、徒歩2分

9 りんご (⇒P23)

札幌市豊平区中の島1条3丁目8-19

さっぽろ駅～(地下鉄7分)～中の島駅下車、徒歩4分

10 狸小路商店街 (⇒P24)

札幌市中央区南2・3条西1～7丁目

・地下鉄大通駅より徒歩5分
・さっぽろ駅～(地下鉄約3分)～すすきの下車、徒歩3分

13 北海道大学総合博物館 (⇒P28)

札幌市北区北10条西8丁目

JR 札幌駅北口より徒歩10分

11 北海道教育大学 アーツ&スポーツ文化 複合施設 HUG (⇒P26)

札幌市中央区北1条東2丁目4

地下鉄大通駅27番出口より徒歩7分、バスセンター前駅より徒歩5分

12 札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館 (⇒P27)

札幌市中央区大通西1丁目～大通東2丁目
(地下鉄大通駅とバスセンター前駅を結ぶ地下コンコース内)
地下鉄大通駅直結

15 札幌市資料館 (⇒P19・30-31・43)

札幌市中央区大通西13丁目

さっぽろ駅～(地下鉄10分)～西11丁目駅下車、徒歩5分

16 札幌市円山動物園 (⇒P32)

札幌市中央区宮ヶ丘3-1

さっぽろ駅～(地下鉄12分)～円山公園駅下車、徒歩約15分または
バス7分、動物園前駅下車すぐ

17 円山公園 (⇒P32)

札幌市中央区宮ヶ丘

さっぽろ駅～(地下鉄12分)～円山公園駅下車、徒歩5分

18 札幌宮の森美術館 (⇒P33)

札幌市中央区宮の森2条11丁目2-1

さっぽろ駅～(地下鉄12分)～円山公園駅～(バス5分)～宮の森1条10丁
目下車、徒歩3分

19 OYOYO まち×アートセンター さっぽろ (⇒P34・43)

札幌市中央区南1条西6丁目8-1 第2三谷ビル6階

地下鉄大通駅1番出口より徒歩2分

20 TO OV cafe/gallery (⇒P41)

札幌市中央区南9条西3丁目2-1 マジソンハイツ1階

さっぽろ駅～(地下鉄5分)～中島公園駅下車、徒歩2分

ゲストハウス × ギャラリープロジェクト 「アートは旅の入り口」会場 (⇒P36)

雪結 (yuyu)

札幌市中央区南3条東4丁目3-13

さっぽろ駅～(地下鉄10分)～バスセンター前駅下車、徒歩5分

THE STAY SAPPORO

札幌市中央区南5条西9丁目1008-10

さっぽろ駅～(地下鉄3分)～すすきの駅下車、徒歩8分

UNTAPPED HOSTEL

札幌市北区北18条西4丁目1-8

さっぽろ駅～(地下鉄3分)～北18条駅2番出口すぐ

Ten to Ten Hokkaido Hostel & Kitchen

札幌市中央区南8条西5丁目288-5

さっぽろ駅～(地下鉄5分)～中島公園駅下車、徒歩5分

めざましサンド店

札幌市中央区南4条東3丁目ハイツ昭和1階

さっぽろ駅～(地下鉄10分)～バスセンター前駅下車、徒歩5分

WAYA

札幌市豊平区豊平2条4丁目1-43

さっぽろ駅～(地下鉄10分)～菊水駅下車、徒歩6分

SappoLodge

札幌市中央区南5条東1丁目1-4

さっぽろ駅～(地下鉄4分)～豊水すすきの駅下車、徒歩2分

札幌ゲストハウスやすべえ

札幌市中央区南10条西7丁目6-6

さっぽろ駅～(地下鉄5分)～中島公園駅下車、徒歩9分

会場連絡バス「土日祝運行」

無料の会場連絡バスを運行します。

○ JR 札幌駅北口とモエレ沼公園を結ぶ「モエレ便」と、JR 札幌駅北口と札幌芸術の森を結ぶ「芸術の森」便があります。

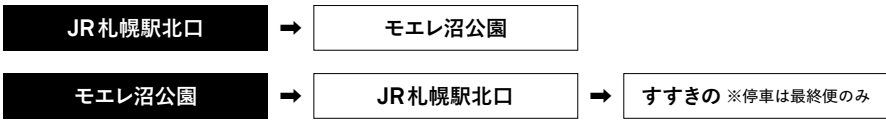
○ 土日祝の運行です。(8月27日(日)は連休です。9月9日(土)はモエレ便のみ連休です。)

○ 乗車するにはバスポートが必要です。(バスポート⇒P44。中学生以下は不要)

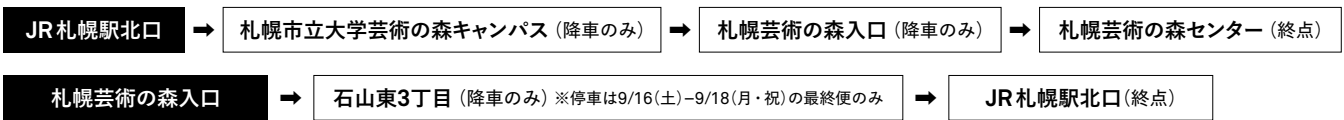
○ 満員の場合は乗車できませんので、ご了承願います。

※札幌市内でのほかのイベント開催や交通状況などに伴い、連休または迂回運行をする場合があります。詳細についてはSIAF2017公式ウェブサイトをご確認ください。

モエレ便 | 運行ダイヤ：JR 札幌駅北口発 10:00 / 11:00 / 14:00 / 15:15 | モエレ沼公園発 12:00 / 13:00 / 16:00 / 17:15 (所要時間35分)



芸術の森便 | 運行ダイヤ：JR 札幌駅北口発 11:45 / 13:20 | 札幌芸術の森入口発 14:15 / 16:05 (所要時間40分)



乗り場案内



乗車する場合は、JR 札幌駅北口「鐘の広場」にお越しください。
出発時間の15分前から受け付けをします。





札幌基本情報

札幌市は、北海道の中心都市として、人口約195万人(北海道の総人口の約3割)を擁する、全国5番目の都市です。四季の移り変わりが鮮明であり、季節によってさまざまな表情を楽しむことができます。夏の気候は、梅雨がなく台風の影響も少ないのが特徴です。7～8月には平均気温が20℃を超えますが、湿度が低く、朝晩は涼しく快適に過ごすことができます。

平均値	8月	9月
最高気温(℃)	26.4	22.4
平均気温(℃)	22.3	18.1
最低気温(℃)	19.1	14.2
降水量(mm)	123.8	135.2

気象庁 web サイトより 札幌の平年値

8月

大通公園では、夏の風物詩ともいえるビアガーデンが開催され、札幌の短い夏を楽しむ人々で賑わっています。

服装：昼間は半袖でも暑く感じることがありますが、夜は肌寒いときもあるので、脱ぎ着ができる薄手の長袖を用意しておくといいでしょう。夜も楽しめるすすきのエリア(P18、20-22)や金市館ビル(P23)、SIAF2017オフィシャルバー OYOYO(P34)などを行き来の際は、上着を準備の上、遅い時間帯も楽しみてください。

さっぽろ夏まつり 7月20日(木)～8月17日(木)

100万人以上が訪れる大きなまつりで、大通公園5～11丁目に約1カ月間出現する国内最大級のビアガーデンをはじめ、北海盆踊り、狸小路商店街の狸まつり、すすきの祭りなど、多くのイベントが行われます。

9月

大通公園に北海道各地の旬の味覚が集まる「さっぽろオータムフェスト」が開催され、グルメの秋を楽しみに多くの人々が訪れます。

服装：秋の訪れを感じさせる季節で、日中でも肌寒くなり、長袖の上着が必要になってきます。野外で開催されるマレウレウ祭り(P38)やOPEN GATE(P40)は、ぐっと冷え込んでくる夕暮れまでの開催になりますので、上着の持参をおすすめします。

さっぽろオータムフェスト 9月8日(金)～30日(土)

道内各地の旬の食材、ご当地グルメやラーメン、道産のとおておきのお酒など、美味しいものが大通公園に集まります。地元食材を使った飲食店や、道内の100を超える市町村などが出店するほか、市内の人気店のシェフが料理を提供する「さっぽろシェフズキッチン」も人気です。



SIAF2017の企画チームをバンドに例え、バンドマスターである大友良英のもとにさまざまなバックグラウンドをもつバンドメンバーが集まり、SIAF2017をつくっていきます。このバンドは盆踊りのお囃子のようなもので、踊りが始まれば、その中心はバンドから、次第にお囃子に合わせて踊っている一人ひとり、つまり参加する皆さんへ移っていくように札幌国際芸術祭の準備を進めていきます。

バンドマスター(ゲストディレクター)

大友 良英

調律(エグゼクティブアドバイザー)

沼山 良明

バンドメンバー(参加メンバー)

漆 崇博、上遠野 敏、木野 哲也、坂口 千秋、佐藤 直樹、中島 洋、端 聡、細川 麻沙美、マユンキキ(マレウレウ)、宮井 和美、藪前 知子

スタッフ

雨森 信、小野 朋子、カジタシノブ、小山 冴子、斎藤 ふみ、佐賀井 真哉、佐野 由美子、白井 宏昭、高橋 喜代史、永田 塁、冨田 哲司、船戸 大輔、松本 知佳、丸田 知明、山岸 奈津子

撮影 クスミエリカ、藤倉 翼

編集 岩村 良介

札幌国際芸術祭実行委員会組織

顧問：高橋 はるみ〈北海道知事〉

顧問：岩田 圭剛〈札幌商工会議所 会頭〉

会長：秋元 克広〈札幌市 市長〉

副会長：岸 光右〈札幌市 副市長〉

副会長：蓮見 孝〈札幌市立大学 学長〉

委員(監事)：酒井 裕司〈一般財団法人さっぽろ産業振興財団 専務理事〉

委員：菊嶋 明廣〈札幌商工会議所 専務理事〉

委員：広瀬 兼三〈株式会社北海道新聞社 代表取締役社長〉

委員：若泉 久朗〈日本放送協会札幌放送局(NHK)局長〉

委員：星野 尚夫〈一般社団法人札幌観光協会 会長〉

委員：浅川 昭一郎〈公益財団法人札幌市公園緑化協会 理事長〉

委員：白鳥 健志〈札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長〉

委員：廣川 雄一〈札幌大通まちづくり株式会社 代表取締役社長〉

委員：橋本 道政〈公益財団法人札幌市芸術文化財団 副理事長〉

委員：甲谷 恵〈北海道環境生活部 文化・スポーツ局 局長〉

委員：大川 祐規夫〈北海道教育庁生涯学習推進局 局長〉

委員：小西 正雄〈札幌市経済観光局 局長〉

委員：高野 馨〈札幌市市民文化局 局長〉

札幌国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局

札幌市市民文化局国際芸術祭担当部 18名

札幌国際芸術祭実行委員会コミッティー

天野 太郎〈横浜市民ギャラリーあざみ野プログラム・ディレクター、主席学芸員〉

飯田 志保子〈東京藝術大学美術学部先端芸術表現科 准教授 /SIAF2014 アソシエイト・キュレーター〉

久保田 晃弘〈多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授 /SIAF ラボメディアアートアドバイザー〉

吉崎 元章〈札幌市芸術文化財団総務課課長職 / 一般財団法人地域創造派遣〉

※2017年6月1日 再版

本資料についてのお問い合わせ

札幌国際芸術祭事務局（担当：石田、岡本、山岸）

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

札幌市国際芸術祭担当部内

TEL：011-211-2314

FAX：011-218-5154

E-MAIL：press@siaf.jp

WEB：<http://siaf.jp>

Facebook：<https://www.facebook.com/siaf2014info>

Twitter：https://twitter.com/siaf_info